

十五



宮内大臣正三位勳一等男爵波多野敬直外
八十二名叙勳ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正四年十一月三十日

内閣總理大臣伯爵大隈重信



内

閣

三十九

大正四年十一月廿九日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

四年十一月三日

内閣總理大臣

賞勳局總裁宛

訓令案

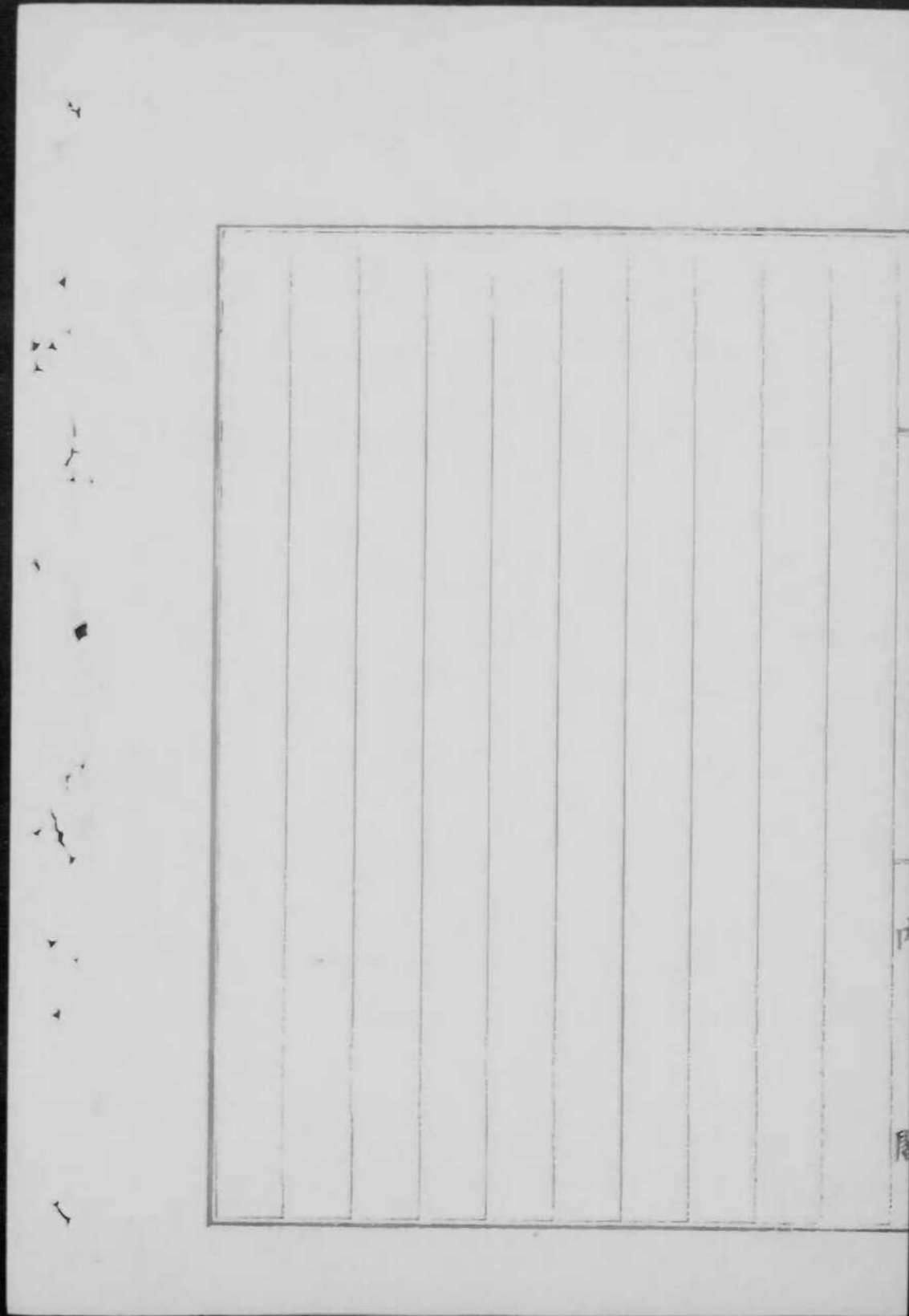
今般特旨ヲ以テ宮内大臣正三位勲一等男爵波
多野敬直外八十二名敘勲ノ旨 御沙汰
付諸事取計ノヘシ

十一月三日

裏面白紙

授	同	同	同	同	同	同	同	同	同	授
勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲七等	勲六等
桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	桐葉章	寶冠章
從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲七等	命婦從五位
皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	皇后宮屬從七位勲八等	命婦從五位
淡近	澄	有鄰	林	大東	登代子	樹下定江	平田三枝	生源寺伊佐雄	西子	富田算子
大野義行										生源寺政子

授	授	授	授
勲七等	勲七等	勲八等	勲八等
寶章	桐葉章	桐葉章	寶章
從七位勲七等	從七位勲七等	從七位勲八等	從七位勲八等
從七位勲八等	從七位勲八等	從七位勲八等	從七位勲八等
高木慶太郎	後藤武三郎	米津小次郎	東宮屬魚主膳



宮内大臣正三位勳一等男爵波多野敬直
右明法四十四年六月東宮大夫に任せられ
祚後侍從長に兼任に尋に宮内大臣に任
せられ大禮関係ノ省務ヲ處理シテ克
職責ヲ全クシ前後勳勞顯著ナリトス
仍に此際旭日大綬章ヲ授けられ候様
總理大臣より上奏方可然御所計お申
度此殿申進候也

大正四年十一月二十日

宮内省

宮内少官石原健三



由緒書記省長江本翼殿

東京府華族

嘉永三年十月

波多野敬直

明治七年	三月十日	補十二等出仕	司法官
八年	正月四日	補十二等出仕	司法官
九年	七月九日	任四級判事補	司法官
十年	七月廿日	任判事補	司法官
十一年	正月廿日	任判事	司法官
十二年	正月廿日	任判事	司法官
十三年	正月廿日	任判事	司法官
十四年	正月廿日	任判事	司法官
十五年	正月廿日	任判事	司法官
十六年	正月廿日	任判事	司法官
十七年	正月廿日	任判事	司法官
十八年	正月廿日	任判事	司法官
十九年	正月廿日	任判事	司法官
二十年	正月廿日	任判事	司法官
二十一年	正月廿日	任判事	司法官
二十二年	正月廿日	任判事	司法官
二十三年	正月廿日	任判事	司法官
二十四年	正月廿日	任判事	司法官
二十五年	正月廿日	任判事	司法官
二十六年	正月廿日	任判事	司法官

(三六)

宮中顧問官從三位勳一等齋藤桃太郎
 右明治三十一年二月以來三十四年十二月迄、間有栖
 川宮別當兼任東宮輔導殿下ヲ輔佐シ勲勞
 不尠東宮大夫ニ任セララルヤ匪躬ノ節頗稱ス
 ヘキモノアリ仍テ此際特ニ旭日大綬章ヲ授ケラ
 レタシ

宮中顧問官從三位勳二等侯爵中山孝磨
 右降誕御用掛明宮勤務長東宮侍從長東
 宮大夫東宮輔導顧問奉仕前後十三年八月
 ニ亘リ勲勞不尠仍テ此際特ニ旭日大綬章ヲ
 授ケラレタシ

降軍中將從三位勳一等功四級男爵村木雅美
 右東宮武官長八年兼任東宮大夫三年六月ニ
 亘リ勲勞不尠仍テ此際特ニ旭日大綬章ヲ授ケ
 レタシ

宮中顧問官從三位勳二等子爵高辻修長
 右明宮御用掛東宮亮東宮主事東宮侍從長
 奉仕十二年二月ニ亘リ勲勞不尠仍テ此際勳
 一等子爵叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

(四六)

宮中顧問官從二位勳二等侯爵木戸孝正
右東宮侍從長奉仕五年九月ニ亘リ勳勞不尠
仍テ此際特ニ旭日重光章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官從三位勳三等公爵一條實輝
右東宮侍從長奉仕四年七月ニ亘リ勳勞不尠仍テ
此際特ニ旭日重光章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官正四位勳三等桂潛太郎
右東宮主事在職七年二月東宮大夫ヲ輔佐シ
職事ニ執掌シ成績顯著ナリ仍テ此際勳二等
ニ叙シ旭日重光章ヲ授ケラレタシ

宮内省

皇子傳育官正六位勳五等桑野 鏡
右東宮屬十五年餘同御用掛、東宮主事七年九月
月ニ亘リ勳勞不尠仍テ此際特ニ雙光旭日章ヲ授
ケラレタシ

侍從從五位勳五等 原 恒太郎
右東宮侍從東宮主事事務取扱十年三月ニ
亘リ勳勞不尠仍テ此際勳四等ニ陞叙シ旭日
小綬章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官從三位勳三等文學博士三島 毅
右東宮職御用掛東宮侍講奉仕十六年五月

尋テ今日ニ至ル又三年四月勲勞不尠仍テ此際勲
一等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官從四位勲三等 丸尾錦作

右明宮御用掛東宮職御用掛東宮侍從十六年四月
月ニ亘リ勲勞不尠仍テ此際勲二等ニ陞叙シ瑞
寶章ヲ授ケラレタシ

從七位 湯本武比古

右明宮祇候明宮勤務明宮御用掛東宮職御用
掛トナリ御教育ノ事ニ與ルコト前後七年九月勲
勞不尠仍テ此際特ニ勲四等ニ叙シ瑞寶章ヲ

宮内省

授ケラレタシ

學習院教授從六位勲六等 小野鏝之助

右東宮職御用掛奉仕十一年十一月ニ亘リ勲勞
不尠仍テ此際特ニ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

宮内省御用掛從四位勲三等 三田守真

右東宮職御用掛東宮侍講十八年十一月宮内省
御用掛三年四月ニ亘リ勲勞不尠仍テ此際特ニ
勲二等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

從五位 幸田 延

右東宮職御用掛奉仕十三年十月ニ亘リ勲勞

(四大)

不_レ少_レ仍_テ此際特ニ勲六等_ニ叙_シ寶冠章ヲ授_ケラレタシ

宮中顧問官從四位勲三等 田内三吉

右東宮武官東宮侍從奉仕前後十三年十月侍從奉仕又二年勲勞不_レ少_レ仍_テ此際勲二等_ニ陞叙_シ瑞寶章ヲ授_ケラレタシ

主權官正四位勲四等子爵 大迫貞武

右東宮侍從奉仕十二年九月勲勞不_レ少_レ仍_テ此際特ニ旭日小綬章ヲ授_ケラレタシ

宮内事務官正四位勲六等子爵 有馬純文

宮内省

右東宮侍從奉仕十年六月勲勞不_レ少_レ仍_テ此際勲五等_ニ陞叙_シ雙光旭日章ヲ授_ケラレタシ

東宮侍從從四位勲六等 本多正復

右明宮御相手東宮御學友奉仕四年東宮侍從十年四月侍從、轉任後現官ニ移ル其勲勞尠カラス仍_テ此際勲五等_ニ陞叙_シ雙光旭日章ヲ授_ケラレタシ

正三位子爵 勘解由小路資承

右先朝禁中兒、祇候、内豎奉仕四年五月明宮勤務東宮侍從奉仕八年一月勲勞尠カラス仍_テ此際勲五等_ニ叙_シ瑞寶章ヲ授_ケラレタシ

侍從從四位勲六等 高辻宜磨

(四大)

右東宮侍從奉仕六年五月勲勞尠カラス仍テ此際特ニ勲五等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

式部官從三位勲四等子爵時 稻葉正繩

右東宮侍從奉仕四年六月勲勞不尠仍テ此際特ニ旭日小綬章ヲ授ケラレタシ

式部官正五位勲三等 鍋島精次郎

右東宮侍從奉仕四年七月勲勞不尠仍テ此際特ニ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

東宮侍從四位子爵 土屋正直

宮内省

右東宮職出仕四年八月皇孫御用掛四年七月勲勞不尠仍テ此際勲六等ニ叙シ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

東宮侍從正五位 甘露寺受長

右御學友東宮職出仕十年一月東宮侍從奉仕三年七月次侍從ニ轉任シ後現官ニ移ル勲勞不尠仍テ此際勲六等ニ叙シ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

皇后宮主事從四位男爵 東久世秀雄

右御相手御學友六年九月大正三年七月現官ニ轉任ス勲勞不尠仍テ勲六等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

(四大)

主馬頭正三位勳一等子爵藤波言忠ノ

右ハ先朝側近奉仕十三年三月主馬權頭以來主馬頭在職先朝奉仕二十四年四月終始不渝勞績最著ハル仍テ此際特ニ旭日大綬章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官正三位勳二等子爵北條氏恭

右先朝侍從奉仕四十一年八月恪勤ノ勞績顯著ナリトス仍テ此際勳一等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官正三位勳三等子爵東園基愛

宮内省

右先朝侍從奉仕四十三年十月恪勤ノ勞績顯著ナリトス仍テ此際勳二等ニ陞叙シ旭日重光章ヲ授ケラレタシ

侍從正五位勳四等日根野要吉郎

右先朝侍從職勤務八年七月侍從十六年一月奉仕勳勞不尠仍テ此際勳三等ニ陞叙シ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

宮内事務官從四位勳四等日野西資博

右先朝侍從職勤務三年十一月侍從試補侍從二十一年十月大正後侍從二年勳勞不尠仍テ此際勳三等ニ陞叙シ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

(四大)

掌典正四位子爵

河籍公篤

右先朝侍從五年四月勲勞不尠仍テ此際勲六等ニ叙シ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

侍從正三位勲三等功四級伯爵清水谷實英

右東宮武官五年五月先朝侍從四年八月奉仕勲勞不尠仍テ此際特ニ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

侍從從四位勲五等男爵澤宣元

右先朝侍從職勤務五年八月侍從試補侍從十六年一月勲勞不尠仍テ此際勲四等ニ陞叙シ旭日小綬章ヲ授ケラレタシ

宮内省

式部官從六位勲五等 慈光寺仲敏

右先朝内暨奉仕十二年一月侍從職勤務次侍從奉仕十六年勲勞不尠仍テ此際勲四等ニ陞叙シ旭日小綬章ヲ授ケラレタシ

侍從正七位勲六等 大炊御門家政

右先朝内暨及侍從職出仕十三年全勤務十一年八月勲勞不尠仍テ此際勲五等ニ陞叙シ雙光旭日章ヲ授ケラレタシ

侍從正七位勲六等 石山基陽

右先朝侍從職出仕十五年五月勤務二年八月

(四大)

勲勞不尠仍テ此際特ニ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

掌典從四位勲五等男爵久我通保

右先朝内暨侍從職出仕十年七月奉仕勲勞

不尠仍テ此際特ニ雙光旭日章ヲ授ケラレタシ

正三位 萬里小路幸子

右先朝皇太后宮權典侍及典侍奉仕二十五年九月

東宮御内儀監督十二年三月大正元年七月皇

后宮御内儀監督大正四年六月免前後御内儀

奉仕四十一年勲勞顯著ナリトス仍テ此際特ニ勲

三等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

宮内省

權典侍正五位 正親町鍾子

右東宮女官十二年三月勲勞不尠仍テ此際勲

五等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

掌侍從四位 吉見光子

右宮内省御用掛權掌侍等英照皇太后奉仕八年

八月東宮女官奉仕十二年三月勲勞不尠仍テ

此際勲五等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

命婦從五位 生源寺政子

右英照皇太后宮權命婦命婦奉仕十二年十月東

宮女官奉仕十二年三月勲勞不尠仍テ此際勲六

(四大)

等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

命婦從五位 富田算子

右青山御所出仕權命婦奉仕十年一ヶ月東宮女官奉仕十二年三ヶ月勲勞不尠仍テ此際勲六等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

正三位 高倉壽子

右先朝皇后宮權典侍、典侍、皇太后宮典侍等前後奉仕四十二年九ヶ月勲勞不尠仍テ此際勲三等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

典侍從三位 千種任子

宮内省

右先朝皇后宮中臈權掌侍權典侍皇太后宮權典侍奉仕前後四十三年五ヶ月勲勞尠ラス仍テ此際勲三等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

典侍從三位 園祥子

右先朝皇后宮權掌侍權典侍皇太后宮權典侍奉仕前後三十三年四ヶ月勲勞不尠仍テ勲三等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

從三位 姉小路良子

右先朝皇后宮權掌侍、掌侍、權典侍奉仕前後三十五年九ヶ月勲勞不尠仍テ勲四等ニ叙シ寶冠

(四大)

章ヲ授ケラレタシ

從 三 位 小倉文子 ✓

右先朝皇后宮權典侍及皇太后宮權典侍奉仕
三十四年七月勲勞不尠仍テ勲四等ニ叙シ寶冠
章ヲ授ケラレタシ

正 四 位 數 嘉根子 ✓

右先朝皇后宮權掌侍心得權掌侍掌侍及皇
太后宮掌侍奉仕前後二十八年七月勲勞不尠
仍テ勲五等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

皇后宮職御掛從四位 小池道子 ✓

宮内省

右先朝皇后宮權掌侍掌侍及皇太后宮掌侍奉仕
前後二十八年十一月勲勞不尠仍テ勲五等ニ叙シ
寶冠章ヲ授ケラレタシ

從 四 位 津守好子 ✓

右先朝皇后宮權掌侍心得權掌侍及皇太后宮
權掌侍奉仕前後二十七年九月勲勞不尠仍テ
勲五等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

正 五 位 香川志保子 ✓

右先朝皇后宮御用掛權掌侍東宮御慶事掛
皇太后宮職御用掛權掌侍取扱等前後奉仕二十

(四大)

六年八月勲勞不尠仍テ此際勲五等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

從四位 吉田 鈺子 ✓

右先朝皇后宮權掌侍心得權掌侍及皇太后宮權掌侍奉仕前後二十五年十月勲勞不尠仍テ勲五等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

皇后宮職御用掛正五位 西 西子 ✓

右先朝皇后宮權命婦命婦及皇太后宮命婦奉仕前後三十年十月勲勞不尠仍テ勲六等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

宮内省

從五位 生源寺伊佐雄 ✓

右先朝皇后宮權命婦及皇太后宮權命婦奉仕前後二十九年十月勲勞不尠仍テ勲六等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

從五位 平田 三枝 ✓

右先朝皇后宮權命婦及皇太后宮權命婦奉仕前後三十年十月勲勞不尠仍テ勲六等ニ叙シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

從五位 樹 下定江 ✓

右先朝皇后宮權命婦及皇太后宮權命婦奉

(四大)

任前後二十五年九月勲勞不尠仍テ勲六等ニ叙
シ寶冠章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官五位勲三等醫學博士西郷吉義

右侍醫東宮職奉仕十二年十月勲勞不尠仍テ
勲一等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

侍醫從四位勲三等片山芳林

右侍醫東宮職奉仕十三年十一月勲勞不尠仍テ
勲二等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

休職侍醫正五位勲四等伊勢錠五郎

右侍醫東宮職奉仕十八年二月勲勞不尠仍テ
勲三等ニ陞叙シ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

侍醫從四位勲三等鈴木愛之助

右侍醫東宮職奉仕一年皇孫三殿下御産殿參
勤勲勞不尠仍テ特ニ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

侍醫正五位勲四等池邊棟三郎

右侍醫東宮職奉仕十八年勲勞不尠仍テ勲三
等ニ陞叙シ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

侍醫從四位勲三等相磯 慥

右先朝侍醫及東宮職奉仕前後十八年七月就
中皇孫兩殿下産殿參勤勲勞不尠仍テ勲二等ニ

陞叙ニ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

侍醫正四位勳三等醫學博士 加藤照磨

右侍醫東宮職奉仕五年三月皇孫御殿奉仕十年
勳勞不尠仍テ特ニ旭日中綬章ヲ授ケラレタシ

侍醫正五位 吉松駒造

右侍醫皇孫御殿奉仕六年三月勳勞不尠仍テ
特ニ勳四等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

宮顧問官從二位勳二等醫學博士男爵池田謙齋

右東宮中十九年二月侍醫局長ニ任セラレ宮廷醫
務ヲ掌理スルコト十二年勳勞顯著ナリトス仍テ特ニ

宮内省

旭日大綬章ヲ授ケラレタシ

宮中顧問官從三位勳二等醫學博士男爵岡玄卿

右明治二十一年五月以來東宮拜診一年十月全三
十一年二月侍醫局長ニ任セラレ宮廷醫務ヲ掌理

スルコト十四年餘勳勞不尠仍テ勳一等ニ陞叙シ

瑞寶章ヲ授ケラレタシ

休職侍醫從四位勳四等 森永友健

右先朝侍醫奉仕十八年一月勳勞不尠仍テ勳三
等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

休職侍醫正五位勳四等 三浦省軒

右先朝侍醫奉仕十八年勲勞不尠仍テ特、旭日小
綬章ヲ授ケラレタシ

侍醫補正七位 原田貞夫

右先朝侍醫補皇孫御殿奉仕六年勲勞不尠仍
テ特ニ勲六等ニ叙シ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

侍醫補正七位 長田重雄

右先朝侍醫補皇孫御殿奉仕七年三ヶ月勲勞
不尠仍テ特ニ勲六等ニ叙シ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

藥劑師長正五位勲四等藥學博士 山田 董

宮内省

右先朝藥劑師、藥劑師長實期二十五年七ヶ月奉仕
勲勞不尠仍テ勲三等ニ陞叙シ旭日中綬章ヲ授ケ
ラレタシ

宮省御用掛東京帝國大學醫科大學教授三位勲三等藥學博士 弘田長

右先朝宮内省御用掛トシテ皇孫御殿奉仕十年勲勞
不尠仍テ特ニ旭日重光章ヲ授ケラレタシ

侍醫正六位醫學博士 土屋岩保

右先朝侍醫東宮奉仕一年四ヶ月勲勞顯著ナルニ
依リ特ニ勲六等ニ叙シ單光旭日章ヲ授ケラレタシ

皇后宮屬從七位勲八等 淡近 澄

右ハ明治三十七年以後先朝東宮屬トシテ奉仕勲勞

不勲仍テ勲七等ニ陞叙シ青色桐葉章ヲ授ケラレ
タシ

東宮屬從七位勲八等 後藤武三郎

右ハ明治二十六年以後先朝東宮職ニ奉仕シ勲勞
不勲仍テ白色桐葉章ヲ授ケラレタシ

皇太后宮職臨時事務囑託 判任特選

從七位勲七等 林 有 鄰

右ハ明治十九年以後先朝皇太后宮職及東宮職ニ奉
仕シ後皇太后宮屬トナリ依願免官セラレ其間勲勞
不勲ニ依リ青色桐葉章ヲ授ケラレタシ

宮内省

從七位勲八等 大野義行

右ハ明治十九年四月以後ニ於テ先朝東宮職ニ奉仕
シ勲勞顯著ナリ仍テ勲七等ニ陞叙シ瑞寶章ヲ
授ケラレタシ

東宮屬兼主膳 米津小次郎

右明治三十二年十二月以來先朝東宮屬トシテ奉仕
勲勞不勲仍テ勲八等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレタシ

掌典補從七位勲八等 高木慶太郎

右ハ明治二十五年以後先朝皇太后宮職ニ奉仕シ後皇
太后宮屬ニ轉シ同職ヲ廢セラレルニ及ヒ廢官トナリ

之間終始勉勵勲勞不尠仍テ勲七等ニ陞叙シ瑞
寶章ヲ授ケラレタシ

右謹テ奏ス

大正四年十一月二十六日

宮内大臣男爵波多野敬直



宮内省

大正四年十一月廿六日

宮内大臣男爵波多野敬直



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

別紙権命婦大東登代子叙勳上奏書
及進達復也

宮内省

權命婦正六位大東登代子

右先朝皇居官及皇太后居官權命婦奉仕
前後十九年六月勲勞不貲仍予勳六等
二敘之寶冠章ヲ授ケラレタシ
右謹テ奏ス

大正四年十一月廿六日

宮内大臣男爵波多野敬直

宮内省



大正四年十一月二十八日

宮内大臣男齋波多郎敬直



内閣總理大臣齋藤實

別紙皇居宮職所用掛柳原愛子叙勳
上奏書及進達儀也

宮内省

(四六)

皇后宮職中掛心之位柳原慶子
右明治三年皇太后宮小上女膳ニ召出サレ
今日年學子侍ニ任セラレレ以来甲午六年勲
功顯著ナリトス仍テ此際勲ニ等ニ叙レ
寶尉章ヲ授ケラレタレ
右謹テ奏ス

大正四年十一月廿八日

宮内大臣男爵波多野敬直



宮内省

東京副華族

明治元年正月廿七日

姓 柳原愛子

年 號 月 日 任 職 官 階

明治三年 正月廿日 皇太后宣上臈被召出

四年 正月廿日 任掌侍

六年 正月廿日 任権典侍

廿五年 正月廿日 任典侍

大正元年 正月廿日 皇太后宣典侍

二年 正月廿日 皇后宣珠占用掛被仰付

大正三年 正月廿日 津内儀監督被仰付

青七日 依朝冕本官

特旨ヲ以テ任一級被進

敘正三位

宮 内 省

(三六)

433

大正四年十一月二十六日

宮内大臣男爵波多野敬直



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

別紙宮中顧問官齋藤桃太郎外七十九名敘
勅上奏書及進達儀也

宮内省

〔四六〕

東宮大夫

從二位勲一等旭日子爵曾我祐準

一 陞叙正二位

(四十一年十二月二十六日從二位以來實期七年定期不足四年)

右御養育主任東宮大夫三年三月

從二位勲一等旭日文學博士男爵細川潤次郎

一 陞叙正二位

右御教授四年大夫五月(三十八年二月廿日從

二位以來實期十年九月定期不足一年三月

宮内省年齡八十二歲ニシテ不足一歲

從三位勲一等瑞寶齋藤桃太郎

一 特賜旭日大綬章

右明治三十一年二月以來三十四年十一月

ノ間有栖川宮別當兼任東宮輔導殿下

ヲ輔佐シテ冥々ノ功居多其ノ三十四年

十一月廿九日東宮大夫ニ任セララルルヤ匪躬ノ

節頗稱スヘキモノアリ 授爵ノ議時宜

ニ非ストセハ頭書ノ恩典過分トセサルニ

似タリ(四十一年四月三十日勲一等瑞寶以来
實期六年十一月半、定期不足二年一月)

從三位勲一等瑞寶侯爵中山孝磨

一 特賜旭日大綬章

右降誕御用掛、明宮勤務長、東宮侍從長、
大夫補導顧問奉任前後十三年八月(三十九
年四月一日勲一等瑞寶以来實期五年九月定
期不足四年三月)

宮内省

從三位勲一等瑞寶功四級男爵村木雅美

一 特賜旭日大綬章

右東宮武官長八年兼任東宮大夫三年六月
(大正元年十二月三日勲一等)

輔導顧問

正二位勲一等花桐伯爵土方久元

一 陞敘從一位

右御養育主任十一月御幼年及東宮中宮内
大臣在職十年七月 花御殿祇候一年二月

補導顧問（廿九年十月十日正三位以来実期九年
一月定期不足一年十一月）

東宮侍從長

從二位勳二等瑞寶子爵高辻修長

一 陞敘勳一等賜瑞寶章

右明宮清用掛東宮亮東宮主事、東宮侍從
長奉仕十二年二月（三十三年五月十日勳二等
瑞寶定期不足二年五月）

宮内省

東宮主事

正四位勳三等旭日桂 潜 右 郎

一 陞敘勳二等授旭日重光章

右東宮主事七年二月、在職中輔佐大夫鞅
掌職事成績最著、明治四十二年依親免
官恩賞未及（四十一年十月廿五日定期敘勳
三等、陞敘定期不足一年）

正四位勳三等瑞寶馬場 三 郎

一 陞敘勳二等授瑞寶章

右東宮主事在職三年七月踐祚當時皇后
宮主事之務取板大正元年十二月兼任主事同
三年六月轉任調度頭（早二年十月廿五日
定期敘勲三等陞敘定期不足二年）

正六位勲五等瑞寶 桑野 銳

一特授雙光旭日章

右東宮屬（十五年一月）折半七年半御用掛
主事、七年九月計約十五年奉仕（大正
四年六月定期敘勲）

宮内省

從五位勲五等瑞寶 原 恒太郎

一陞敘勲四等授旭日小綬章

右東宮侍從、主事之務、十年三月與桂主事
同功（十四年十二月定期敘勲、陞敘定期
不足二年）

紳學事奉仕

正三位勲一等旭日子爵 杉 孫七郎

一特授旭日桐花大綬章

右東宮職御用掛奉仕十七年上月踐祚後宮内
省御用掛奉仕三年三月（廿九年十月定期勲
一等 廿七年十二月定期旭日大綬章他日特
授爵有其議姑待時期以至于今）

從三位勲二等 瑞寶文學博士 三島 毅

一 陞敘勲一等授瑞寶章

右東宮職御用掛東宮侍講奉仕十六年五月
尋至于今又三年四月（四十一年六月十五日
定期敘勲 陞敘定期不足四年七月右譽

官倍之）

官 内 省

從四位勲三等 瑞寶丸尾 錦作

一 陞敘勲二等授瑞寶章

右明宮御用掛東宮職御用掛東宮侍從十六
年四月（大正二年十二月二十七日定期敘勲三等
陞敘定期不足五年三月）

從七位 湯本 武比古

一 特敘勲四等授瑞寶章

右明宮祗候明宮勤務明宮御用掛東宮職
御用掛專任御教育之事前後七年九月
一敘勲文部省奏案四等瑞寶、因議銓擬
五等瑞寶、今姑依文部省奏案杉浦重
剛同等)

從六位勲六等瑞寶 小野銅之助

一特授單光旭日章

右東宮職御用掛奉仕十一年十月(大正三年六月
廿九日定期敘勲、陞敘定期不足四年半但
特授旭日似有所不嫌要商量)

宮内省

從四位勲三等瑞寶 三田守真

一特授旭日中綬章

右東宮職御用掛東宮侍講十八年十月宮内
省御用掛又三年四月(四十五年六月廿七日定期
敘勲、陞敘定期不足八年半 特授旭日中綬
章不能無不及之感 陞敘勲三等不得為過
要商量)

從五位 幸田 延

一特敘勲六等

右東宮職清用十四三年十月（男子敘勲之例高
等官三等 身人最末位 初敘六等 定期十二年
今准擬立案）

東宮侍從

從四位勲三等 日旭 田内三吉

一陞敘勲二等授瑞寶章

右東宮武官東宮侍從奉仕前後十三年
十月侍從奉仕又二年（三十九年四月一日戰
功敘勲 陞敘定期不足三年八月）

官内省

正四位勲四等 瑞寶 子爵大迫貞武

一特授旭日小綬章

右東宮侍從奉仕十二年九月（大正三年六月
定期敘勲名譽官 陞敘定期不足十四年
六月）

正四位勲六等 瑞寶 子爵有馬純文

一 陞敘勲五等授雙光旭日章

右東宮侍從奉仕十年六月轉任家令（大正二年六月定期敘勲 陞敘定期不足二年半）

從四位勲六等瑞寶 本多 正 復

一 陞敘勲五等授雙光旭日章

右明宮御相手東宮御學友四年東宮侍從奉仕十年四月轉任侍從 現東宮侍從（大正三年十二月廿三日定期敘勲 陞敘定期不足三年）

宮内省

正三位 子齋 勘解由小路資承

一 陞敘勲六等授瑞寶章

右先朝禁中兒祗候内監奉仕四年五月、明宮勤務 東宮侍從奉仕八年一月、明治廿八年一月廿四日免東宮侍從（高等官六等奉仕定家當時官等）

初敘十三年半 實期七年二月半退官 定期不足六年四月 正三位子齋特敘勲六等俸面如何一

從四位勲六等瑞寶 高辻 宜 磨

一特授單光旭日章

右東宮侍從奉仕六年五月轉任侍從(大正三年六月定期敘勲奉仕年數不甚長且陞敘年數實期甚短單光旭日可然)

從三位勲四等

瑞寶

子爵稻葉正繩

一特授旭日小綬章

右東宮侍從奉仕四年七月轉任式部官(大正二年六月十八日定期敘勲陞敘定期不足一年半奉仕年數不甚長旭日小綬似得當)

官

内

省

正五位勲三等

瑞寶

銅島精次郎

一特授旭日中綬章

右東宮侍從奉仕四年七月轉任式部官(大正三年六月定期敘勲於官等為極任)

從四位

子爵

土屋

正直

一陞敘勲六等授瑞寶章

右東宮職出仕四年八月皇孫濟用掛四年七月現東宮侍從(敘勲高等官五等本人現官等初)

敘定期十三年、式部官東宮侍從奉職年
數實期八年五月半經過、定期不足四年
二月半)

正五位 甘露寺受長

一 陞敘勳六等授瑞寶章

右御學友東宮職出仕十年一月、東宮侍從
奉仕三年七月、轉任次侍從、現東宮侍從
(敘勳初敘六等定期不足三年六月)

宮内省

從四位 男爵 東久世秀雄

一 陞敘勳六等授瑞寶章

右御相手御學友六年九月、大正三年七月九日
轉任皇后宮主事 (現官四等敘勳六等十
二年半實期不足二年半)

侍從職

正三位勳一等 瑞寶子爵 米田虎雄

一 特授旭日大綬章

右先朝侍從職奉仕四十一年 大正元年十二月廿一日

以主獵頭兼侍從職幹事 三年五月十三日免
兼官（早二年十月廿五日定期敘勲）

正三位勲二等瑞寶子爵北條氏恭

一 陞敘勲一等授瑞寶章

右先朝侍從奉仕早二年八月有恪勤之勞（四
十四年十二月廿六日定期敘勲、名譽官陞敘
定期不足十年、被錄其年功此降陞敘似
未為過）

宮内省

正三位勲三等瑞寶子爵東園基愛

一 陞敘勲二等授旭日重光章

右先朝侍從奉仕早三年十月有恪勤之勞
（早五年十月廿六日定期敘勲、陞敘定期不足
二年）

正五位勲四等瑞寶日根野要吉郎

一 陞敘勲三等授旭日中綬章

右先朝侍從職勲坊八年七月侍從十六年一月
（早二年十月廿五日定期敘勲、陞敘定期不足

二年一

從四位勳四等瑞日野西資博

一 陞敘勳三等授旭日中綬章

右先朝侍從職勳務三年十月侍從試補侍從

二十一年十月大正後侍從二年大正三年七月二十日

轉任宮内事務官(四十二年十月廿五日定期敘勳

陞敘定期不足二年)

正四位 子爵 河精公篤

官内省

一 特敘勳六等授單光旭日章

右先朝侍從五年四月大正元年十二月二日轉

任掌典(勳六等初敘實期不足二年八月境

遇可酌量)

正三位勳三等瑞功四級伯爵清水石實英

一 特授旭日中綬章

右東宮武官奉仕五年五月先朝侍從四年八月

現任侍從(大正三年六月定期敘勳)

從四位勳五等瑞男辭澤 宣元

一 陞敘勳四等授旭日小綬章

右先朝侍從藏勅務五年八月侍從試補侍從
十六年一月一四十年十月廿五日定期敘勳、陞敘
定期來月一

從六位勳五等瑞慈光寺仲敏

一 陞敘勳四等授旭日小綬章

右先朝内監奉仕十二年一月勅務次侍從
十六年 大正元年十月五日任侍從尋轉任
官 内 省

式部官一四十三年十二月廿六日定期除勳、陞敘
實期不足三年、酌量河新章典同様一

正七位勳六等瑞大炊津門家政

一 陞敘勳五等授雙光旭日章

右先朝内監出仕奉仕十三年、勅務十一年八
月大正元年十二月二日任侍從一四十年十二月
廿五日定期敘勳、陞敘實期不足八月一

正七位勳六等瑞石山基陽

一特授單光旭日章

右先朝侍從職出仕十五年五月勤務二年
八月大正元年十二月二日任侍從（大正三年
十二月廿三日定期敘勳）

從四位勳五等瑞男爵久我通保

一特授雙光旭日章

右先朝内監侍從職出仕十年七月明治三十二年
七月三十日任掌典（大正十年十月廿五日定期敘勳）

宮内省

東宮女官

正三位 萬里小路幸子

一特敘勳三等

右先朝皇太后宮權典侍、典侍奉仕三十五年
九月、東宮御内儀監督十二年三月、大正元
年七月、皇后宮御内儀監督、大正四年六月四日
免、前後御内儀奉仕四十一年

正五位 正親所鐘子

一特敘勳五等

右東宮女官十二年三月、大正元年七月三十日
皇后女官 大正二年五月廿一日 皇后女官
典侍

從四位 吉見光子

一特敘勲五等

右宮内省濟用掛權掌侍等 英照皇太后女官
奉仕八年八月、東宮女官奉仕十二年三月
大正元年七月三十日 皇后女官 大正二年五月
廿一日 皇后女官掌侍

宮内省

從五位 生源寺政子

一特敘勲六等

右英照皇太后女官權命婦、命婦、奉仕十二
年十月、東宮女官奉仕十二年三月、大正元
年七月三十日 皇后女官 大正二年五月廿一日
皇后女官命婦

從五位 富田算子

一特敘勲六等

右青山清所出任権命婦奉仕十年一月東
宮女官奉仕十二年三月 大正元年七月三十日
皇后宮女官 大正二年五月三十日 皇后宮命
婦

皇太后宮女官

正三位 高倉壽子

一特敘勲三等

右先朝皇后宮権典侍、典侍、皇太后宮典
侍等前後奉仕四十二年九月、大正三年

宮内省

八月一日 廢官 典侍取扱

從三位 千種任子

一特敘勲三等

右先朝皇后宮中臈権掌侍権典侍皇
太后宮権典侍奉仕前後四十二年五月、大
正三年十月七日 皇后宮典侍

從三位 園祥子

一特敘勲三等

右先朝皇后宮權掌侍權典侍 皇太后宮
權典侍奉仕前後三十三年四月、大正三
年十月七日 皇后宮典侍

從三位 姊小路良子

一特敘勳四等

右先朝皇后宮權掌侍、掌侍、權典侍奉
仕前後三十五年九月、大正三年八月一日 廢
官、典侍取扱

宮内省

從三位 小倉文子

一特敘勳四等

右先朝皇后宮權典侍 皇太后宮權典侍奉
仕三十四年七月、大正三年八月一日 廢官、典侍
取扱

正四位 藪 嘉根子

一特敘勳五等

右先朝皇后宮權掌侍心得、權掌侍、掌侍
皇太后宮掌侍奉仕二十八年七月、大正三年

八月一日廢官、掌侍取扱

從四位 小池道子

一特敘勳五等

右先朝皇后宮權掌侍、掌侍、皇太后宮掌侍
奉仕二十八年十月、免官、掌侍取扱、皇
后宮職、津用掛

從四位 津守好子

一特敘勳五等

宮内省

右先朝皇后宮權掌侍心得、權掌侍、皇
太后宮權掌侍奉仕二十七年九月、大正
三年八月一日、廢官、掌侍取扱

正五位 香川志保子

一特敘勳五等

右先朝皇后宮津用掛權掌侍、東宮津慶
市掛、皇太后宮職、津用掛、權掌侍取扱等
前、後奉仕二十六年八月、大正三年八月一日
廢職

(四六)

正四位 吉田 钰子

一特叙勳五等

右先朝皇后宮權掌侍心得、權掌侍、皇
太后宮權掌侍奉仕二十五年十月、大正
三年八月一日廢官、掌侍取扱

正五位 西 西子

一特叙勳六等

右先朝皇后宮權命婦 命婦 皇太后宮命
婦奉仕三十年一月、大正三年八月一日廢
官 權掌侍取扱

宮内省

正五位 生源寺伊佐雄

一特叙勳六等

右^{先朝}皇后宮權命婦 皇太后宮權命婦奉仕
二十九年一月、大正三年八月一日廢官、命婦
取扱

正五位 平田 三枝

大

一特敘 勳六等

右先朝皇后宮權命婦 皇太后宮權命婦
奉仕三十年一月、大正三年八月一日廢官
命婦取扱

從五位 樹下定江

一特敘 勳六等

右先朝皇后宮權命婦 皇太后宮權命婦奉仕
三十五年九月、大正三年八月一日廢官、權命
婦取扱

宮内省

侍醫寮

正四位勲三等旭醫博士西郷吉義

一 陞敘勲二等授瑞寶章

右先朝侍醫東宮職奉仕十二年十月奉寮
勤務一年七月(三十九年四月)戰功敘勲陞
敘實期不足二年二月

從四位勲三等瑞寶片山芳林

一 陞敘勲二等授瑞寶章

右侍醫東宮奉仕十三年十月(大正三年六月)
宮内省
十六日定期敘勲、陞敘實期不足三年

正五位勲四等瑞寶伊勢錠五郎

一 陞敘勲三等授旭日中綬章

右侍醫東宮奉仕十八年二月(早二年十二月)
定期敘勲、大正三年十二月廿四日休職、係陞敘
實期不足二月

從四位勲三等瑞寶鈴木愛之助

一 特授旭日中綬章

右侍醫 東宮奉仕一年 皇孫三殿下御
産殿参勤 (大正三年十二月廿三日定期敘勲)

正五位勲四等實瑞 池邊棟三郎

一 陞敘勲三等授旭日中綬章

右侍醫 東宮奉仕十八年 (十四年六月
廿八日定期敘勲、陞敘實期不足一年)

従四位勲三等實瑞 相磯 造

一 陞敘勲二等授瑞寶章

宮内省

右侍醫 東宮奉仕七年五月 款中皇孫兩

殿下御産殿参勤 (十四年六月二十日定期

敘勲、高等官二等陞敘定期八年、實期不
足三年半)

正四位勲三等實瑞 醫博士加藤照磨

一 特授旭日中綬章

右侍醫 東宮奉仕五年三月 皇孫濟殿奉仕

十年 (大正三年十月廿三日定期敘勲)

正五位 吉松駒造

一特敘勲四等授瑞寶章

右侍医 皇孫御殿奉仕六年三月（現官等
高等官三等 初敘四等 定期七年 実期
不足一年十月半）

從三位勲一等瑞寶男爵池田謙齋

一特授旭日大綬章

右東宮中十九年二月任侍医局長以来東宮廷
医務掌理十二年（廿八年十月三十日戦功
叙勲 陞授実期不足十一月半）

宮内省

從三位勲二等瑞寶男爵岡玄卿

一陞敘勲一等授瑞寶章

右明治廿一年五月以来東宮拜診一年十月
三十二年二月二日任侍医局長 官廷医務
掌理十四年八月（四十年六月三十日定期
叙勲 陞敘実期不足三年 即名譽
官不足六年）

從四位勳四等瑞 森永友健

一 陞敘勳三等授瑞寶章

右先朝侍医奉仕十八年一月、大正三年七月
三十日休職（大正元年三月十日定期敘勳
休職之際陞敘實期不足二年三月）

正五位勳四等實瑞 三浦省軒

一 特授旭日小綬章

右先朝侍医奉仕十八年、大正四年六月
三十日休職（大正四年二月廿六日定期敘勳）

宮内省

正五位勳四等瑞 藥學博士 山田 董

一 陞敘勳三等授旭日中綬章

右先朝茶劑師判任十三年三月 折半六年七月
茶劑師長十九年 勤勞不貳（四十一年十

月廿五日定期敘勳 陞敘實期不足一
年）

正七位 原田 貞夫

一 特敘勳六等授暁光旭日章

(四六)

右先朝侍医補皇孫濟殿奉仕六年(嘉
等官六等 初敘六等十三年半 陞敘
實期不足 四月半)

正七位 長田重雄

一特敘勳六等授軍光旭日章

右先朝侍医補皇孫古役奉仕七年三月
(高等官六等 初敘勳六等 宣期十三年半
實期不足 一年四月中)

宮内省

注三位勳二等

瑞 弘田 長

一特授旭日重光章

右先朝宮内省御用掛 東京帝國大學医科
大學教授 十位一等 皇
孫古役奉仕十年(廿九年四月一日定期
敘勳 陞敘實期不足 三月)

注二位勳一等 旭 渡邊千秋

一特敘正二位

右宮内大臣在祿四年 踐祚當時奉仕 大正
二年大禮準備委員長(一四年十月廿日)

特旨敘位、大正三年四月九日退職當時
宣期不足一年半、退職

從三位勳三等旭日 河村金五郎

一 陞敘勳二等授旭日重光章

右宮内次官在任五年四月踐祚當時奉仕
大禮關係宮内事務功勞不少（四十三年
十二月廿六日定期敘勳退官當時陞敘宣
期不足二年余）

宮内省

從五位勳四等瑞 栗原廣太

一 陞敘勳三等授瑞寶章

右宮内書記官在任中第一期大禮關係省務
尽力不貳（十四年六月韓國係合之功
敘勳退官當時陞敘宣期不足五年）

めくれず

本籍 東京府士族
 舊 旧幕士
 生年 嘉永六年八月十三日
 名 姓 齋藤 桃太郎

年 號	月 日	任 叙 轉 免 出 張 賞 罰 等	資 格	官 階
明治六年	六月	在伊太利國公使館附書記 暫中付候事	判任取扱	外務省
九年	正月	書記二等兄羽留申付候事		
十年	一月	書記一等兄羽留申付候事		
十二年	三月	任外務書記生		
十四年	八月	任外務書記生		
十六年	七月	任外務二等屬 音書 依於先本官 官内省南掛被仰付奉任左二進 取扱候事但一月全六十回下切候事		外務省
十七年	十月	任式部官 七等相堂年俸九百内下切候事		官内省
十八年	三月	官内省以同掛兼勤被仰付候事 太政官以同掛兼勤被仰付候事 左大臣祕書官被仰付候事		太政官
十九年	二月	任官内書記官兼式部官 補外事洋次長		官内省
二十七年	七月	任官内大臣祕書官兼補外事洋次長		官内省

(三六)

275

兼式部官如故

廿一年正月

兼任右柳川守家令

兼式部右少辨
課長如故

廿三年正月

官内書記官事務補助ヲ命ズ

六月

補内事課次長

十二月

兼任文事秘書官

叙奏任官三等

廿四年正月

免兼文事秘書官

廿六年正月

任官内書記官

兼式部官有柳川守
兼内事課次長如故

叙三等賜三級俸

廿九年正月

皇太子殿下兼三十年七月廿九年三月

上三、二行給假、事項取調悉免被仰付

大臣

卅一年九月

兼補内事課長

賜二級俸

三十一年二月

兼任右柳川守別当

兼式部官内事課
長如故

賜三級俸

卅三年二月

東宮内侍給儀以用掛被仰付

五月

東宮内侍給儀以用掛被仰付

仰付

卅四年正月

任東宮大夫

叙一等賜二級俸

當内事課長心得右柳川守別当心得

被仰付

卅五年四月

右柳川守別当心得被免

卅六年八月

内事課長心得被免

卅八年一月

任内事課計室查片長

叙一等賜一級俸

四十二年四月廿五日	昌子内親王以婚儀日用掛被仰付	賞
四月廿五日	常宮日用掛被仰付	賞
四月廿五日	教勲一等授瑞寶章	賞
四十二年六月廿五日	依預竹田宮日用掛被免	賞
四十二年四月廿五日	富美宮日用掛被仰付	賞
四月廿五日	朝香宮日用掛被仰付	賞
四月廿五日	宗秩室宮議友被仰付	賞
四月廿五日	叙從三位	賞
大正三年七月廿日	依願免本官	賞
三年七月廿日	任宮中顧問官	賞
	叙高寺官一等	賞

宮内省

宮内省

賞勲局

東京府華族

嘉永五年壬子三月

中山孝麿

生年

名

年號

月日

任叙轉免出張賞罰等

職名

資格

官

衙

明治三年

正月

任室內書記官

兼任四等

下賜

官

由

明治二年

六月

家督被仰付

官

由

明治二年

二月

明室勤務長被仰付假奉

官

由

二月

任東室侍從長

官

由

二月

任東室侍從長

官

由

二月

任東室侍從長

官

由

二月

任東室侍從長

官

由

明治二年

正月

任東室大夫

官

由

明治二年

二月

叙一等賜二級俸

官

由

明治三年

二月

東室侍從被仰付掛被仰付

官

由

明治三年

五月

叙二等授瑞室奉

官

由

明治四年

正月

轉百々以下任一級被仰

官

由

明治四年

二月

叙正三位

官

由

明治四年

二月

授相目重光奉

官

由

明治五年

一月

任室中使向官

官

由

明治五年

二月

叙一等

官

由

明治六年

正月

任帝室會計室查房長

官

由

明治六年

二月

叙一等賜一級俸

官

由

宮内省

高知縣士族

無一

年政三年有

姓名 村木雅美

明治二十九年	三月廿日	任陸軍少尉	資格官	衛
明治三十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十一年	九月廿日	任陸軍砲兵少尉		
明治三十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治三十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十一年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治四十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十一年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治五十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十一年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治六十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十一年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治七十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十一年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治八十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十一年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十二年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十三年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十四年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十五年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十六年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十七年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十八年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治九十九年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		
明治一百年	九月廿日	任陸軍砲兵中尉		

東正府筆族
 菅上
 天保十年二月
 山崎國愛定邸

高辻修長

年號	月日	任職轉免出張賞罰等	資格
明治二年	八月廿六日	任侍從	大政官
六年	七月七日	任侍從	
十五年	三月九日	請官内省出仕兼任侍從	
十七年	三月廿六日	免出仕專任侍從	
十七年	三月廿六日	任侍從	
十七年	六月廿四日	任官内少書記官	官内省
十九年	七月八日	明官御用掛被仰付候事	
十九年	七月廿六日	授子爵	
十九年	二月五日	任官内書記官	
十九年	九月廿六日	明官御用掛專務被仰付候事	
十九年	九月廿六日	萬事上方御用掛三指揮可受事	
廿二年	三月三日	任東官亮	
廿二年	三月三日	叙奏任官二尋賜二級俸	
廿四年	六月十三日	任東官主事	
廿四年	六月十三日	叙奏任官一尋賜四級俸	
廿四年	三月廿六日	任帝室會計二番查官兼帝室會計	
廿四年	三月廿六日	番查官主事	

此欄内二記入

敘四等瑞三級侍

廿六年三月廿六日 兼任宮内書記官 兼赤室守計方直
右主事如前

廿七年五月廿日 任皇太后宮亮兼赤室會計方直
官叙三等別三級侍

四月三十日 廢皇太后宮

三十年六月廿日 任東宮侍從長

賜四級侍

廿二年七月廿日 叙從二位

廿三年五月十日 敘勲二等授瑞寶章

廿五年五月廿日 任宮中顧問官 叙一等

宮内省

本声喜阿一桑其輝
史史原後了味分
284

裏面白紙

姓 桂 階 大 郎
 名 桂 階 大 郎
 東 京 府 平 氏
 山 口
 安 永 元 年 十 月 九 日
 長 門 國 豐 前 郡 河 村
 細 迫 清 大 郎

年 號	月 日	任 職 官 階	資 格	官 階
明 治 九 年	十 月 廿 日	補 主 典		
十 年	十 月 廿 日	補 二 等 辦 事		
十 一 年	十 月 廿 日	補 一 等 辦 事		
十 五 年	十 月 廿 日	任 官 內 二 等 參 事		官 內 省
十 六 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事 補		官 內 省
十 七 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
十 八 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
十 九 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 一 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 二 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 三 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 四 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 五 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 六 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 七 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 八 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
二 十 九 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省
三 十 年	十 月 廿 日	任 官 內 主 事		官 內 省

(三六)

東京府上族
 柳川藩
 安政四年正月廿四日
 竹之助

名 姓
 桑野 鏡

年 號	月 日	任 務	資 格
明治六年	正月廿日	發見廳清用掛申付候事 但取掛註判任月俸辛五月後与候事	發見廳
十九年	正月廿日	任發見廳 叙判任官七等	
二十年	三月廿日	非職ヲ命ス	
廿二年	正月廿日	任東宮高 叙判任官七等	宮内省
廿三年	二月廿日	東宮清備儀清用掛附居ヲ命ス	
廿三年	正月廿日	東宮高婚儀清用掛取叙ヲ命ス 左上ヲ免ス	宮内省
廿七年	正月廿日	依願免本官	
廿八年	正月廿日	東宮藏清用掛被仰付 但差任持過	
廿九年	正月廿日	任東宮主事 心得被仰付	
廿九年	正月廿日	任東宮主事 叙六等	
廿九年	正月廿日	皇子清用掛被仰付	
廿九年	正月廿日	任皇子侍育官	
		叙高等官四等	
		皇子清用掛被免	
		叙正六位	
廿四年	正月廿日	叙勳五等授瑞宝章	勳章局

(三六)

福岡縣士族
 福岡藩
 安政六年五月一日

名 姓
 原 恒太郎

年 月 日 任 職 官 階

明治十五年十月廿日 小階官家任中付 吳事

十七年六月廿日 宮内省御用掛中付判任 庫下取扱 吳事

庶務課勤務中付 吳事

壬戌年 任宮内九等信魚舍人

庶務課勤務中付 吳事

廿六年三月廿三日 大卒 慶附了了

宮 内 省

七月廿日 大卒 慶附了了

廿五年三月廿日 任内大臣秘書官 叙七等賜三内俸

内事課勤務並勤被仰付

二月廿八日 侍從職勤務並勤被仰付

四月十日 調査課勤務並勤被仰付

五月五日 内事課調査課侍從職勤務並勤被免

任東宮侍從 叙七等賜三内俸

四十四年五月廿日 東宮侍從馬場三郎生居不在中 臨時奉

宣之奉 事務取扱了了

三月廿三日 當分 内東宮之事務取扱了

命了

十二月廿六日 叙勳五等授瑞宝章

(三六)

訂 正

訂正理由

撮影ミスの為

訂正箇所

直前の

/ コマ取消

/ コマ再撮影

訂正年月日

平成 20 年 9 月 29 日

このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。

撮影者

伊藤 一夫

印

受託責任者

東京都港区西麻布2丁目26番30号

富士フィルム株式会社

産業機材部長

後藤 佳久

印



本籍 福岡縣士族
 籍貫 福岡 藩
 名 姓 原 恒太郎

明治十五年十月廿日 任 叙轉免出役當罰等
 資格 官 衙

十七年六月廿五日 山階宮家任申付云事
 宮内省御用掛申付判任三單レ取扱云事
 庶務課勤務申付云事

五月廿五日 任 宮内九等偏魚舍人
 庶務課勤務申付云事

廿八年三月廿二日 大本 慶附云事

七月廿五日 大本 慶附云事

廿五年二月廿七日 任 内大臣秘書官 叙七等 賜三内俸

二月廿八日 侍從職勤務並勤被仰付

四月十日 調査課勤務並勤被仰付

五月五日 内事課調査課侍從職勤務並勤被免

任 東宮侍從 叙七等 賜三内俸
 東宮之事馬場三郎生居不在在任付奉
 宣之重 事務取扱云事

三月廿三日 當分 内東宮之事、事務取扱云事

三月廿六日 叙 勲五等 授 瑞宝章

(三六)

四十五年二月十三	任式部官	叙正五位四等如二例	
七月廿日	東宮之事事務取扱ノ命ス		
侍從職事務兼勤ノ命ス			
皇太子之事務取扱ノ命ス			
大正元年八月廿	臨時齋斎事務補助ノ命ス		
九月廿	東宮之事務取扱ノ命ス		
十月二	侍從職事務兼勤ノ命ス		
任侍從	叙正五位四等如二例		
皇太子之事務取扱ノ命ス			
臨時齋斎事務補助ノ命ス			
二年三月八	臨時齋斎事務補助ノ命ス		
三年七月廿	兼任文内事務六段	叙正五位四等	
侍從職勤務ノ命ス			
大正三年三月廿四	陞叙正五位三等	如二例	
四年一月廿	叙從五位		
			宮内省

東豆腐士族

高河不

生國郡鐵中谷屋新中洲村文

天保元年三月九日
三島貞一郎

名 姓
三島 毅

年 號	月 日	任 職	資 格	官 階
明治五年	九月	補司法省七等出仕		大政官
六年	三月廿日	任司法省權少判事		
八年	五月廿日	任七等判事		
十年	五月十日	任六等判事		
十年	六月廿日	慶大審判判事		
十四年	八月十日	任東京大學教授		内閣
十九年	三月廿日	非職命七元		文部省
廿一年	三月七日	任檢事 叙奏任官三等		内閣
廿三年	十月廿日	任判事		
廿九年	三月廿日	休職命七元 東京御用掛命七元但勅任特選 年俸一千八百円下細		司法省
	三月廿日	任東京待講		官内者
四十年	三月廿日	叙二等賜三級俸		
		陞叙高等官一等		
		叙一級俸		
四十二年	三月廿日	叙勲二等授瑞寶章		賞典局
四十四年	三月廿日	叙從三位		

(三六)

加納 十福
 生 加納 十福
 名 姓
 丸尾 錦作

年號	月日	任職轉免出仕賞罰等	官
明治十七年	七月廿日	宮内省御用掛判任官取扱一月月金	宮内省
		三十両支給候事	
		學務院助教申付候事	
十八年	四月廿日	任學習院助教	
十九年	八月廿日	任學習院助教	
十年	三月廿日	依願免本官	
廿二年	五月八日	任學習院教授	宮内省
		叙奏任官六等賜中級俸	
	六月四日	明宮御用掛兼勤被仰付候事	
	七月四日	東宮職御用掛兼勤被仰付候事	
廿八年	五月七日	任東宮侍從	
		叙六等賜五級俸	
卅八年	九月廿日	任宮中顧問官	
		叙二等	
四十二年	五月廿日	皇孫御養育掛長被仰付	
叙從四位			
四十五年	七月廿日	皇太子御養育掛長兼東宮職御	
大正元年	九月廿日	用掛被仰付	
二年	四月廿日	任皇太子傳召官長	

(三六)

長野縣平民

明治廿四年三月

名 姓
湯本 武比古

年 號

月 日

資 格 官 銜

明治九年十月

長野小學校之雇員月俸金七月

十年五月

解職

十六年三月廿五

東京師範小學校之雇員一月至廿五同交

付候事

十七年三月廿五

文部省以角掛中任取扱准判任候事

但月俸金三十五圓改換候事

官 内 省

十八年三月廿五

任文部省孝属

文部省

十九年四月廿五

依預先本任

文部省

明室相候被仰付候事

但年俸五百圓下切

明室相教務掛勤務ノ命又

十月廿五

明室勤務被仰付候事

年俸五百圓下切

明室相教務掛子務ノ命又

廿年九月廿五

任學問院教授

奎任官等 年俸五百圓下切

明室相南掛兼勤被仰付候事

廿三年七月廿五

依預先本任

(三六)

東平府士族
 萬延元年二月十日
 藤河國藤枝中城町

名 姓
 小野 銅之助

年號	月日	任職	資格	官階
明治九年	七月六日	任大藏屬	大藏省	
明治十年	八月七日	任藏免奉官		
明治十三年	九月九日	東京藏用掛被仰付	藏内省	
明治十九年	四月五日	學習院庶務課長ヲ聘託ス		
明治二十年	六月廿六日	任學習院教授		
大正元年	八月廿三日	敘高等官七等	文部省	
大正二年	六月廿五日	東京藏用掛被免		
大正二年	八月十日	任高等官五等		
大正三年	六月廿五日	敘勳六等授瑞寶章		

(三六)

東京府士族
 幕府存臣
 生年 安政三年五月廿三日
 名 三田守真
 姓 三田
 生誕地 武蔵國豊島郡小川町原庄
 名 日向果太郎

年號	月日	任叙轉免出張賞罰等	資格	官	階
明治七年	八月七日	補十一考出任	陸軍省		
十年	一月十日	四考出任以下級廢			
	一月十日	補十三考出任			
十二年	三月十日	補十二考出任			
十六年	三月廿日	免出任			
		當者正用掛甲付候事 <small>准判任月付三十五 月下知照奉</small>		官	
十七年	十月四日	補十一考出任	陸軍省		
十九年	正月廿日	任學智院教授	官		
		月俸五十兩 下郎			
		任學智院教授			
		委任六考 年俸 六百兩 下郎			
廿六年	九月廿日	東京職御用掛被仰付			
廿九年	十月廿日	任東京侍講			
		叙五考 別五級 俸			
卅三年	正月十日	常官任用掛被仰付			
卅四年	六月廿日	用官任用掛兼勤被仰付			
卅五年	正月廿日	常官任用掛被仰付			
卅五年	正月廿日	用官任用掛被仰付			
卅五年	六月廿日	陸軍高等官二考			

(三)

四十五年六月十七日	賜二弘儀	賞勲
大正元年一月廿四日	叙勲三等授瑞寶章	賞勲
大正元年一月廿四日	宮内省御用掛被仰付	宮内省
二年二月廿日	叙従四位	宮内省

東京府士族

明治三年三月廿六日

幸田 延

年	月	日	任職轉免出缺官制等	資格官	街
明治六年	十月	廿三	任高等师范学校附属高等学		
			校教授		
			叙高等官七等	内閣	
廿三年	九月	廿	東京府御用掛兼勤被仰付	文部省	
廿八年	十月	廿	叙高等官三等		
			叙五位		
四十年	四月	廿	常官因官御用掛兼勤被仰付	文部省	
四十二年	四月	廿	常官御成始官御用掛消滅		
四十二年	四月	廿	因官御成始官御用掛消滅		
	九月	廿	文官分限全才士条第一項才四号	文部省	
			依休職ヲ命ス		
四十四年	九月	廿	休職満期		
			奏任待遇 (東京府)	文部省	
在元年	十月	廿	東京府御用掛被免		

高知縣上役
 明治四年改三年三月

名姓
 田内三吉

年號	月日	任叙轉免出張官等	資格官	銜
明治四年	二月一日	任陸軍少尉		
明治五年	三月一日	任陸軍工兵中尉		
明治六年	三月一日	任陸軍工兵大尉		
明治七年	三月一日	任陸軍工兵少佐		
明治八年	三月一日	補東宮武官		
明治九年	三月一日	任陸軍工兵中佐		
明治十年	三月一日	任陸軍少將		
明治十一年	三月一日	任宮中顧問官		
明治十二年	三月一日	任高等官二等		
明治十三年	三月一日	兼任東宮侍從		
明治十四年	三月一日	免兼官		
明治十五年	三月一日	兼任侍從		
明治十六年	三月一日	任高等官三等		
明治十七年	三月一日	兼任武部官		
明治十八年	三月一日	任高等官二等		
明治十九年	三月一日	任高等官四等		

宮内省

(三六)

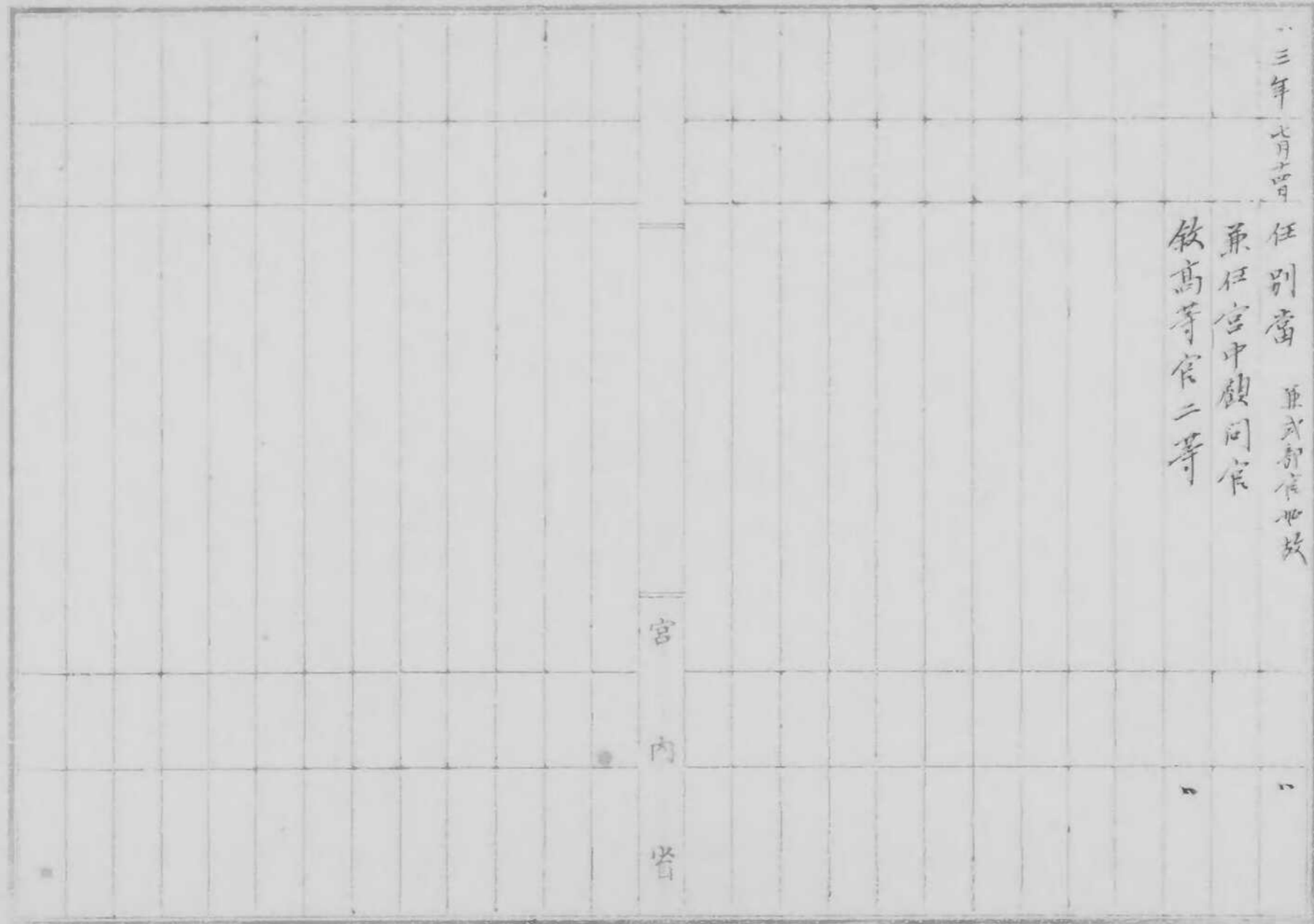
三年七月

任別當

兼式部省

兼任宮中顧問官
教高等官二等

宮
内
省



姓 大迫 貞武
 名 大迫 貞武
 鹿見島藩
 正四
 武次
 鹿見島新築院

年 號	月 日	任 職	資 格	官 階
明治十二年	五月廿六日	補陸軍裁判所十等出仕	陸軍判	判
二十五年	三月廿日	任警視廳	警視廳	判
二十六年	三月廿日	任警察書記	警察書記	判
二十七年	三月廿日	任警察副使	警察副使	判
二十八年	七月四日	任警部	警部	判
二十九年	三月廿日	任願免本官	願免本官	判
三十四年	三月廿日	任主執官	主執官	判
三十四年	三月廿日	任東宮侍從	東宮侍從	判
三十九年	五月廿日	家督相續被仰付 (子爵)	家督相續被仰付	判
四十四年	六月廿日	任主執官	主執官	判
四十四年	六月廿日	任高等官三等	高等官三等	判
四十四年	六月廿日	任正四位	正四位	判
四十四年	六月廿日	任勳四等授瑞寶章	勳四等授瑞寶章	判

(三六)

東原新華族
 越前國丸岡
 明神宗元年一月三日
 有馬亮之助

姓名
 有馬純文

年號	月日	任職	資格	官	街
明神宗元年	正月廿日	任陸軍騎兵少尉			
〃	〃	任東宮侍從			
〃	〃	授大等			
〃	〃	襲爵被仰付 (子爵)			
〃	〃	授正四位			
〃	〃	任家令 授高等官三等			
〃	〃	東久迩宮附ヲ命ス			
〃	〃	授正六位 授瑞寶章			
〃	〃	任宮内事務官 授高等官三等			
〃	〃	東久迩宮附ヲ命ス			

東京府華族

從四

東京府華族
原可三月一審地

本多正復

年號	月日	任職	資格	官階
明治十七年	九月十日	明安殿下御相手拜命		官口者
台三年	十月廿日	明安殿下御相手被免		
二十三年	三月廿日	東安殿下御學友拜命		
二十五年	三月廿日	東安殿下御学友被免		
二十五年	四月廿日	任東安侍從		
二十五年	七月廿日	任侍從		
大正元年	九月八日	任東安侍從		官口者
三年	四月九日	東安主事々訪取扱ノ命ス		
		陞教高等官三等		
		賜二級俸		
		授勳六等授瑞寶章		賞勳局
		授從四位		官口者

授高等官四等
賜二級俸

授高等官四等
賜二級俸

年	月	任職	職名
明治元年	六月十日	禁中見祿假被仰付	
二十四年	七月廿五日	任内監	
二十五年	四月廿日	補宮内省九等出仕	
二十六年	八月廿日	依願免宮内省九等出仕	
二十六年	三月廿日	司法省清用掛拜命 判任官取扱	
二十六年	三月廿日	任裁判所書記	
二十七年	九月廿日	依願免裁判所書記	
二十八年	百廿日	明宮勅務被仰付	
二十九年	百廿日	任東宮侍從 兼奏任官五等	
二十九年	百廿日	家督相續 子爵	
二十九年	百廿日	依願免東宮侍從	
二十九年	七月十日	貴族院議員當選	
二十九年	七月十日	敘 正三位	

萬延元年九月十日
勘解由小路資承

宮内省

(三)

東京府筆頭
從四位勳一等

公卿

高辻宜麿

明治四年八月三

年 月 日 任 叙 轉 免 出 張 賞 罰 等 資 格 官 銜

明治廿年二月九日 任 武部官 敘 六等

廿九年三月廿日 兼 任 東宮侍從 敘 六等 賜 四等俸

卅三年正月七、 任 東宮侍從 兼 武部官

四五年七月一、 敘 從四位

七月卅、 任 侍從 兼 官如故

敘 五等 下 五等 賜 一級俸

大正二年六月廿、 陞 敘 五等 官 四等 俸

賜 二級俸

三年六月九、 敘 勳 六等 授 瑞宝章

七月廿、 陞 敘 五等 官 三等 俸

四年六月廿、 賜 一級俸

官 內 省

(三六)

本籍 東京府華族
 没 藩
 名 姓 稲葉正純
 生年 明治三年七月三日
 名 姓 松浦 虎

年 號	月 日	任 職	資 格	官 階
明治廿八年	一月十六日	任東京府待從		官内省
明治廿九年	首吉	龍崎被仰付		
明治廿九年	六月廿七日	任式部官		
明治廿九年	七月三日	兼任式部主事		
明治廿九年	八月一日	式部主事		
明治廿九年	七月十日	叙 従三位		
明治廿九年	首吉	陞叙高等官二等		官内省
大正三年	首吉	叙 並四等授瑞寶章		官内省

(三六)

<p>明治六年 八月廿日 任式部官</p>	<p>二十三年 七月廿日 任東宮侍從</p>	<p>廿五年 五月廿日 任式部官</p>	<p>廿七年 七月廿日 兼任主理官</p>	<p>廿九年 三月廿日 主理官主事心得兼勳被付付</p>	<p>卅一年 六月廿日 任主理官兼式部官主理官</p>	<p>卅三年 十月廿日 陞敘高等官三等 (武部官)</p>	<p>卅四年 六月廿日 陞敘高等官三等 (本官)</p>	<p>卅五年 六月廿日 敘勳三等授瑞寶章</p>	<p>七月廿日 官制中改二 主理官主事 考名</p>	<p>八月廿日 免兼官 武部官兼官上二</p>	<p>八月廿日 敘正五位</p>	<p>佐賀縣華族</p>	<p>佐賀藩</p>	<p>慶應三年 七月廿日 生</p>	<p>名 姓 鍋島精四郎</p>	<p>資格官 衛</p>	<p>官 内 省</p>	<p>官 内 省</p>	<p>官 内 省</p>	<p>官 内 省</p>	<p>官 内 省</p>	<p>官 内 省</p>	<p>官 内 省</p>
---------------------------	----------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	----------------------	--------------	------------	--------------------	----------------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

(三六)

東京府華族

土浦

子爵 土屋正直

延四

明治十四年一月廿六日

千葉縣印旛郡十倉村

年 月 日 任職特免出仕被仰付 爵位 官 銜

明治廿年十月廿日 東京職出仕被仰付 出仕被免 任武部官 授高等官六等 皇孫清用掛被仰付 授從四位

廿三年五月九日 出仕被免 任武部官 授高等官六等 皇孫清用掛被仰付

廿四年三月廿日 任武部官 授高等官六等 皇孫清用掛被仰付

廿五年一月一日 皇孫清用掛被仰付 授從四位

廿五年三月廿日 授從四位

廿五年七月廿日 皇孫清用掛被仰付

大正元年九月廿日 任東宮侍從

授高等官六等 賜二級俸 兼任武部官

授高等官五等 東京職出仕被仰付 義上心得

授高等官四等 武部官

東宮主事 職務取扱ヲ命ス

東宮主事 職務取扱ヲ免ス

授高等官五等 賜二級俸

授高等官五等

授高等官四等

授高等官四等

授高等官四等

授高等官五等 賜二級俸

(三)

東三府華族

生 明治十一年七月十九日

男爵 東久世秀雄

姓 東久世

名 秀雄

年 號 月 日 任 叙 轉 免 出 張 賞 罰 等 資 格 官 銜

明治三十年五月廿日 特旨ヲ以テ華族ニ被列

授男爵

廿八年十月廿日 任山林局書記 五級俸下知

廿九年四月一日 任山林事務官

廿月三日 任貴族院書記官 八級俸下知

宮 内 省

明治三十年十月廿日 叙高等官七等 十九級俸下知

左三年四月七日 任農商務書記官

叙高等官四等 三級俸下知

四月廿日 兼任貴族院書記官

叙高等官四等

五月九日 任山林事務官兼農商務省事務官

叙高等官四等 華族院書記官

一級俸下知

七月九日 任皇族院主事

叙高等官四等

賜一級俸

宮内省

内閣

内閣

貴族院

農商務省

(三)

東京府華族 田 彦上
 正三
 嘉永六年九月十日
 京都山崎町

名 姓
 藤波 彦忠

年	月	任	資格	官	内	省
元治元年	三月廿六日	任伊勢權守				
慶應元年	育	任神庭権大副				
明治七年	育	補官四有九等出仕				
十年	九月一日	任侍從試補				
十五年	二月一日	補官四有八等出仕兼侍從試補				
二十一年	育	任侍從				
二十七年	育	廢官				
	三月廿	任侍從 六等官相当				
	七月八日	授子爵				
二十九年	四月廿日	主馬権頭心得兼勅被仰付御事				
三十一年	七月廿日	任主馬頭				
		敍奉任官一等賜五以俸				
三十二年	育	東宮御禮儀御用掛被仰付				
三十四年	育	敍 正三位				
三十七年	育	兼任官中顧問官 敍一等				
三十九年	育	陞敍高等官一等 (主馬頭)				
大正三年	育	敍勲一等授瑞寶章				

(三六)

年號	月日	任叙轉免出張賞罰等	資格	官	階
明治二年	六月廿四	任秋山少藩知事	大政官		
三年	五月十一	依叙免秋山少藩知事 任次侍從			
四年	七月九	兼任内舍人助 官内省出仕被仰付准事	大政官		
四年	七月廿三	免出仕		大政官	
四年	七月廿六	任侍從			
十七年	三月廿四	任侍從			
廿七年	二月廿六	兼任官中顧問官		官内省	
廿七年	二月廿六	兼任官中顧問官		官内省	
四十四年	三月廿六	叙正三位			
四十五年	七月十日	依叙免本官			
大正元年	十二月二	陞叙高孝官一等			

本貫 東亞府華族
 籍 旧 秋山少藩
 生年 弘化三年八月十六日
 生國郡 武藏國四日島郡
 名 智七郎

姓 子爵
 北條氏恭

(三六)

東京府筆後

旧子 上

東園基彦

明治

嘉永四年六月志

年 月 日 任 職 官 格 官 衛

明治九年九月志 任侍從

十六年七月八 授子志付

廿四年六月廿 叙正三位

廿七年三月六 叙任宮中顧問官 叙三等

廿六年正月廿 叙勳三等授瑞寶章

大正元年正月廿 叙高等官一等 宮中顧問官

宮 内 省

(三六)

東京府士族

正五位勳四等

嘉永五年十一月生

日根野要吉郎

年 號 月 日 任 職 免 出 仕 申 付 候 事 官 階

明治五年五月十日、宮内省九等出仕申付候事

六年七月九日、免出仕

八月三日、陸軍省九等出仕申付候事

十年七月二日、宮内省尚用掛兼勤申付候事

十七年六月十日、補宮内省八等出仕

侍從職付申付候事

二十年十二月八日、依願免本官

侍從職勤務被仰付 月俸三十四石

廿九年二月十日、任侍從 月俸三十四石

四十三年十一月五日、叙勳四等授瑞宝章

四十三年十一月三日、陞叙高寺官三等 賜二石俸

四十五年六月四日、賜一石俸

大正四年二月十日、叙正五位

宮内省

<p>本籍 長尾府華族 明治九年十月十日 京都府下愛宕郡</p>	<p>舊姓 日野上 明治九年十月十日 身 歴</p>	<p>名 姓 日野西資博</p>
<p>明治九年十月十日 任 侍從 勤務被仰白候事 廿三年九月十日 任 侍從 試補 叙 奏任官五等賜五級俸</p>	<p>資 格 官 階 奏任 官 階 官 階</p>	<p>賞 給 官 階 賞 給</p>
<p>卅三年三月廿日 任 侍從 叙 六等賜四級俸 叙 勲四等授瑞寶章</p>	<p>賞 給 官 階 賞 給</p>	<p>賞 給 官 階 賞 給</p>
<p>明治四十年一月廿日 任 官内奉務官 大正三年七月廿日 叙 高奉官三等 叙 一級俸</p>	<p>賞 給 官 階 賞 給</p>	<p>賞 給 官 階 賞 給</p>

(三)

東系新華族
正四
京都

旧壹上
安政四年十月

名姓
河野公篤

年號	月日	任職	資格	官	省
慶應元年十月		兒、召出サレ			
明治三年十月		兒被免			
三十四年三月十四日		任侍從			
三十四年七月一日		敘高等官五等			安南
八月三日		襲爵被仰付 (子爵)			
大正元年十月十日		任章典			
		敘高等官四等			安南

(三六)

めくれず

307

年	月	任官	資格	官	階
明治	七年七月七	授伯主府			
明治	廿二年七月廿	任陸軍歩兵少尉			
明治	卅年十月廿五	任陸軍歩兵大尉			
明治	卅二年十月五	補近衛歩兵第三聯隊中隊長			
明治	卅七年三月廿四	免本職補東宮武官			
明治	卅九年四月一	免本職補歩兵第三十四聯隊附			
明治	四十年十月廿	任陸軍歩兵中佐			
明治	四十四年七月十	任侍從叙高等官五等			
大正	三年十月廿三	授正三位			
大正	三年六月廿九	授勳三等瑞宝章			
大正	三年六月廿九	授勳三等瑞宝章			
大正	三年六月廿九	授勳三等瑞宝章			
大正	三年六月廿九	授勳三等瑞宝章			

東宮侍從後

旧位上

伯耆清水谷安英

(三六)

年號	月日	任官	資格	官	内	省
明治十七年	八月	任内監				
二十二年	七月	侍從職出任被仰付兼事				安内省
二十九年	七月	侍從職勤務被仰付				
		但委任待遇				
三十三年	七月	侍從試補心得兼勤被仰付				
三十六年	七月	任次侍從				
		叙七等				
四十三年	七月	叙勲五等授瑞寶章				賞内省
四十四年	八月十日	叙 從六位				賞内省
四十九年	七月	任侍從				
		叙高等官五等				
		任式部官				
		叙高等官五等				

東京府平民
 田 彦 上
 明治七年四月廿九日
 藤 若

名 姓
 慈光寺仲敬

(三)

東京府筆跡
正七位勳六等

旧吏工
明徳元年一月廿二日

石山基陽

任官轉免出仕被仰付 奏任待遇

明徳元年六月廿七 侍從職出仕被仰付 奏任待遇

年俸三百五十兩下賜

四年正月八 侍從職勤務被仰付 口上

年俸六百五十兩下賜

四年四月廿 叙正七位

大正元年正月二 侍從職勤務被免

任侍從

叙高等官七等 賜二級俸

三年十一月廿 賜一級俸

五月廿三 叙勳六等授瑞宝章

官 内 省

<p>本籍 東京府華族 明治十七年十月六日 武藏國南栗島村 下石</p>	<p>舊姓 田 堂 上</p>	<p>名 姓 久我通保</p>
<p>年 號 月 日</p>	<p>任 職 轉 免 出 張 賞 罰 等</p>	<p>資 格 官 階</p>
<p>明治十七年七月廿三日</p>	<p>任内監 左任六等下級侍下賜 侍從職出仕被仰付候事</p>	<p>全日有</p>
<p>明治十七年二月廿日</p>	<p>特旨ヲ以テ華族ニ被列 授男爵</p>	<p>〃</p>
<p>明治十七年七月廿日</p>	<p>任掌典</p>	<p>〃</p>

大正三年十月廿四日	授勳五等授瑞寶章	賞賜同
大正三年十月廿四日	授勳高等官四位	賞賜同
大正三年十月廿四日	授勳四位	賞賜同
大正三年十月廿四日	授勳八等	賞賜同

(三六)

東土府幸族

天保六年九月

名 姓
萬里小路幸子

嘉永六年九月九日	上賜火庭出勤		
安政四年三月廿日	御奉公人被仰付		
四年 八月廿日	任權典侍		
六年 二月廿日	任典侍		
廿年 正月廿日	依願免本官		宮内省
廿三年 正月廿日	與侍三準取扱候事		
廿三年 正月廿日	御慶奉掛被仰付	口邊	
廿三年 正月廿日	東宮内儀監督被仰付		安内省
四年 一月廿日	在字女官長事務取扱		
四年 一月廿日	特方一以一位一級被進		
四年 一月廿日	叙正三位		
四年 一月廿日	東宮職少用掛被仰付		
四年 一月廿日	但勅任侍思		
在元年七月廿日	皇太后之職少用掛被仰付		
在元年七月廿日	皇太后之職少用掛被仰付		
四年 六月廿日	依願皇太后之職少用掛被免		

(三六)

<p>本姓 華族</p>	<p>名 慶應二年七月七日</p>	<p>姓 正親所 鍾子</p>
<p>本姓 主部</p>	<p>名 慶應二年七月七日</p>	<p>名 正親所 鍾子</p>
<p>年號 月日 任叙轉免出云守等</p>	<p>明治廿三年五月八日 任東宮女官 賜三級侍</p>	<p>資格 官 衛 慶任 宮内省</p>
<p>大正元年七月廿日 皇太后女官</p>	<p>高孝官六等上級侍</p>	<p>〃</p>
<p>二年五月廿日 任皇后宮權典侍</p>	<p>賜下級侍</p>	<p>〃</p>
<p>四年六月廿日 叙正五位</p>	<p>叙正五位</p>	<p>〃</p>
<p>宮内省</p>	<p>〃</p>	<p>〃</p>

(三六)

本籍 東京府士族

姓名 吉見光子

明治六年三月

明治

名

年 月 日 任 職 免 出 張 賞 罰 等 資 格 官 階

明治三年九月十日 官内省 雇中付 任事

青山少所 勤中付 任事

一月全三十日 支給 任事

青森 官内省 御用掛 被仰付

委任取扱 一月全三十日 支給 任事

十四年 正月十日 任 権上子 侍

明治廿年 五月廿日 依 願 為 本 官 官 内 省

権上子 侍 准之取扱 任事

廿三年 三月廿日 街 慶 事 掛 被 仰 付

五月十日 任 東 宮 女 官

如 三 級 俸

如 從 四 位 皇 后 宮 女 官

大正元年 七月廿日 高 等 官 五 等 下 級 俸

二年 五月廿日 任 皇 后 宮 女 官 侍

如 上 級 俸

(三六)

生 源 寺 政 子

嘉永五年八月

名 姓
生 源 寺 政 子

年 號 月 日 任 取 時 處 出 勤 等 辭 職 時 處 資 格 官 銜

明 治 元 年 青 苜 下 觸 御 雇 出 勤

四 年 月 廿 日 任 權 命 婦

十 七 年 月 廿 日 任 權 命 婦

十 六 年 月 廿 日 任 命 婦

州 年 月 廿 日 依 願 免 本 官

命 婦 準 取 扱 任 意

宮 内 省

明 治 卅 三 年 三 月 廿 日 御 慶 事 掛 紙 仰 付

五 月 廿 日 任 東 宮 女 官

初 四 日 俸

四 十 三 年 五 月 廿 日 叙 從 五 位

大 正 元 年 七 月 三 日 皇 后 宮 女 官

高 寺 官 七 等 上 級 俸

二 年 月 廿 日 任 皇 后 宮 命 婦

別 上 級 俸

宮 内 省

年 號	月 日	任 取 時 處	出 勤 等	辭 職 時 處	資 格	官 銜
明 治 元 年	青 苜	下 觸	御 雇	出 勤		
四 年	月 廿 日	任 權	命 婦			
十 七 年	月 廿 日	任 權	命 婦			
十 六 年	月 廿 日	任 命	命 婦			
州 年	月 廿 日	依 願	免 本 官			
		命 婦	準 取 扱	任 意		
明 治 卅 三 年	三 月 廿 日	御 慶 事	掛 紙	仰 付		宮 内 省
	五 月 廿 日	任 東 宮	女 官			
		初 四 日	俸			
四 十 三 年	五 月 廿 日	叙 從	五 位			
大 正 元 年	七 月 三 日	皇 后 宮	女 官			
		高 寺 官	七 等 上 級 俸			
二 年	月 廿 日	任 皇 后 宮	命 婦			
		別 上 級 俸				

本官 東京府士族

明治五年三月口

名 姓 富田算子

年 號 月 日 任 職 官 階 資 格 官 階

明治廿年 買替 官内省出仕被仰付

但奉任官取扱奉降八百円下領
青山少所勤務ヲ命ス

廿年 二月廿 任権命婦

廿年 五月廿 依願免本官

取扱取扱ヲ命ス

官 内 省

明治廿年 九月廿 元皇太后宮女官殊務取扱ヲ命ス

廿三年 三月廿 御慶奉掛被仰付

五月廿 任東宮女官

卯六級降

四年 一月廿 東宮女官

新再考官七考

奉降八百円下領

左元年 七月廿 皇太后宮女官

高考官七考下級降

二年 五月廿 任皇太后宮命婦

卯下級降

二月廿 賜上級降

四年 六月廿 叙從五位

(三六)

京都府華族永則姓

天保三年九月

高倉壽子

年 月 日 任 叙 轉 免 出 張 賞 罰 等 資 格 官 銜

慶應三年正月廿日 女御上臈被召出

明治元年正月廿日 皇太后宮内局被仰付

四年正月廿日 任權典侍

六年二月廿日 任典侍

甲子年一月廿日 叙高寺官二等

賜上級俸

大正元年七月廿日 皇太后宮典侍

高寺官二等上級俸

三年八月一日 廢官

元皇太后宮職務取扱被仰付

典侍ニ準シ取扱限事

特旨ヲ以テ位一級被進

叙正三位

土月廿日 元皇太后宮職務取扱被免

東京府華族有任女

安政二年育

千種任子

年號

月日

任職

資格官

階

明治四年正月十日 皇后宮中臈被仰付

八月廿六日 任權 壹年侍

十三年二月廿六日 任權 典侍

大正元年七月廿九日 皇太后宮權典侍

高等官 四等 上級 俸

二年 五月廿六日 皇后宮職御用掛被仰付

宮内省

大正二年 七月廿六日 皇后宮職御用掛被免

任皇后宮典侍

叙高等官 二等

賜上級俸

主育 蒙 叙 從 三位

(三六)

本記
改訂
京都府華族基祥長

名
氏
慶應三年十月

名
氏
園
祥子

年
號
月
日
任
叙
補
免
出
張
賞
罰
等
新
舊
官
名
資
格
官
銜

明治十三年二月廿三
任權掌侍

廿一年二月廿三
任權典侍

甲午一月廿
權典侍 高寺官四等
即上級侍

大正元年二月廿
皇太后宮權典侍

高寺官四等上級侍

宮
内
省

大正二年五月廿
皇太后宮職内用掛被仰付

七月廿
皇太后宮職内用掛被免

任皇太后宮典侍

叙高寺官二等

賜上級侍

七月廿
叙從三位

本行
後北条府事藤原房房房

名
月日
安政四年四月

名姓
姊小路良子

年號 月日 任叙轉免出候實別等 資格官 銜

明治十年十月廿日 宮内省雇半白任事
一月全三内之任候事

十年三月廿日 任権忠手侍

廿一年十月廿日 任忠手侍

廿五年一月廿日 任権忠侍

四十年一月一日 任判取正

宮内省

明治元年一月一日 権忠侍 高孝任四等
御上候侍

宮内省

大正元年七月廿日 皇太后之権忠侍

三年八月一日 高孝任四等上候侍
元皇太后之職残務取扱被仰付

典任三進上取扱候事

特旨ヲ以テ任一級被進

叙從三位

三月廿日 元皇太后之職残務取扱被免

“ “ “ “ “ “

在任存堂板英丸伯母

生年 文久二年十月

姓名 小倉文子

年號 月日 任叙轉免出張官等

明治三年 正月廿六 任權典侍

甲午年 一月下 權典侍 高寺官署

即上級侍

在元年七月廿 白皇太后宮權典侍

高寺官署上級侍

三年 八月下 發官

宮内省

宮内省

元皇太后宮職殘務取扱被仰付

典侍ニ降レ取扱被仰付

特另ヲ以テ位一級被進

在三年 十二月廿 元皇太后宮職殘務取扱被先

(三)

本姓 族 車京府 華族

三國 氏姓

名 慶應三年 音 其

名 姓 敷 嘉根子

年 號 月 日 任 職 免 出 張 賞 罰 等 資 格 官 銜

明治七年 有 廿六 宮内省 雇申付 候事

但 月俸 金 三十 兩 支 付 候 事

十九年 二月 廿六 權 掌 侍 心得 被 仰 付 候 事

但 一 年 金 六 百 兩 下 別

音 其 任 權 掌 侍

宮 内 省

四年 一月 一 日 權 掌 侍 高 考 臣 六 考

物 上 込 俸

宮 内 省

四年 一月 一 日 任 掌 侍

別 下 込 俸

正元元年 七月 廿 日 皇 太 后 宮 掌 侍

高 考 官 五 考 下 込 俸

三年 八月 一 日 廢 官

元 皇 太 后 宮 職 務 取 扱 被 仰 付

掌 侍 二 准 十 二 取 扱 候 事

特 旨 以 上 位 一 級 被 准

叙 正 四位

音 其 元 皇 太 后 宮 職 務 取 扱 被 仰 付

(三六)

本貫 藤原氏
位 左大臣
主殿 藤原氏
利 藤原氏

名 姓
弘化二年三月
名 姓
小池道子

年 號 月 日 任 叙 轉 免 出 張 賞 罰 等
辭 職 等
其 探 納 等
資 格 官 衙

明和六年正月十日 任權左侍

卅五年一月廿日 任左侍

四十二年一月十日 左侍 高孝官之等
燭上級侍

去在元年七月廿日 白至右后宮左侍

高孝官五等上級侍

宮 內 省

去在元年七月廿日 叙從四位

二年正月廿日 皇后宮職法用掛被仰付

去在元年七月廿日 依願免本官

左侍 進士 取扱候事

但席次 左侍 在官中ノ事

本貫 後醍醐天皇御孫

生誕地 河内國

名 津守好子
元治元年八月

姓 津守好子

年號 月日 任叙轉東出後宮御等 資格官 衙

明徳十八年十月廿日 宮内省 雇申付御事

十九年 青七月 但月俸金三千圓支給御事

權掌侍心得被仰付御事

廿一年 二月廿日 任下年 六百圓下御

任權掌侍

四十一年 一月一日 權掌侍 高孝官六等

宮内省

大正元年 七月廿日 賜上級俸 皇太后宮權掌侍

三年 八月一日 高孝官六等上級俸 廢官

元皇太后宮職殘務取扱被仰付

掌侍準取扱御事

特与以下位一級被進

敘從四位

青廿日 元皇太后宮職殘務取扱被先

姓 藤原

名 香川

名 香川 志保子

名 香川 志保子

年 號

月 日

任 叙 轉 免 出 張 出 張 出 張

資 格

官

衙

明 治 十 一 年 一 月 十 六 日 宮 内 省 御 用 掛 被 仰 付 候 事

宮 内 省

廿 二 年 二 月 十 六 日 年 俸 千 円 下 賜 候 事

廿 二 年 二 月 十 六 日 皇 后 宮 職 御 用 掛 被 仰 付 候 事

年 俸 一 千 年 千 円 下 賜

卅 三 年 四 月 十 六 日 御 慶 奉 掛 被 仰 付

任 権 掌 事 侍

宮 内 省

五 月 十 六 日 東 宮 職 御 用 掛 並 勤 被 仰 付

七 月 十 六 日 東 宮 職 御 用 掛 並 勤 被 仰 付

依 願 免 本 官

権 掌 事 侍 三 准 取 扱 候 事

大 正 二 年 二 月 十 七 日 皇 后 宮 職 御 用 掛 被 仰 付

但 掌 事 侍 取 扱

三 年 八 月 十 六 日

廢 職

元 皇 太 后 宮 職 御 用 掛 取 扱 被 仰 付

掌 事 侍 三 準 取 扱 候 事

特 許 方 以 上 位 一 級 被 進

叙 正 五 位

大 正 十 一 年 元 皇 太 后 宮 職 御 用 掛 取 扱 被 仰 付

(三六)

本籍 東京府華族

明治 文久三年二月廿三日

姓名 吉田 鈺子

年 號 月 日 任 職 免 出 職 官 階 資 格 官 階

明治廿年 七月廿日 御雇被仰付候事

宮内省

廿一年 七月廿日 權掌侍心得被仰付候事

但一ノ年六月内下賜

廿二年 七月廿日 任權掌侍

〃

翌年 一月廿日 權掌侍 高孝官六等

賜上級俸

宮内省

大正元年 七月廿日 皇太后宮權掌侍

高孝官六等上級俸

宮内省

三年 八月一日 廣官

元皇太后宮職 職務取扱被仰付

掌侍ニ準シ取扱候事

特方ヲ以テ位一級被進

叙從四位

三月廿日 元皇太后宮職 職務取扱被免

〃

東京府平民

嘉永三年七月

姓名 西 西子

年 月 日 任 職 免 出 張 官 格 官 銜

明治元年六月廿七 御 皇太后 中 賜 被 仰 付

三月廿 下 賜 被 仰 付

四年 月 廿 任 權 命 婦

十七年 月 廿 任 權 命 婦

十八年 月 廿 任 命 婦

四十二年 月 廿 命 婦 高 尊 官 七 等

賜 上 級 俸

官 內 省

在 元 年 七 月 廿 日 皇 太 后 宣 命 婦

二年 月 廿 高 尊 官 七 等 上 級 俸

二年 月 廿 兼 任 皇 后 宣 命 婦

三年 七 月 廿 免 兼 官

八月 日 廢 官

元 皇 太 后 宣 命 殘 務 取 扱 被 仰 付

權 出 掌 傳 二 準 取 扱 係 奉

特 旨 以 予 位 一 級 被 進

叙 正 五 位

青 芳 元 皇 太 后 宣 命 殘 務 取 扱 被 仰 付

四年 十 月 廿 皇 后 宣 命 職 出 用 掛 被 仰 付

但 奏 任 持 臣

海防士族 平格女

文久三年正月

生源寺仔佐雄

年 號 月 日 任 職 特 免 出 立 官 制 等 辭 職 官 格 官 階

明治十二年七月廿日 任權命婦

十七年八月廿三日 任權命婦

四十年一月一日 權命婦 高等官八等

賜上級俸

大正元年七月廿日 白皇太后宣權命婦

高等官八等上級俸

宮 內 省

大正三年八月一日 廢官

元皇太后宣職 殘務取扱被仰付

宮内省

命婦三階ニ取扱任事

特方ヲ以テ在一级被進

叙從五位

大正元年 元皇太后宣職 殘務取扱被仰付

年 號	月 日	任 職	特 免	出 立	官 制 等	辭 職	官 格	官 階
明治十二年	七月廿日	任權	命婦					
十七年	八月廿三日	任權	命婦					
四十年	一月一日	權命婦		高等官八等				
		賜上級俸						
大正元年	七月廿日	白皇太后宣權	命婦					
		高等官八等	上級俸					
		宮	內	省				
大正三年	八月一日	廢官						
		元皇太后宣職	殘務取扱被仰付					
		命婦三階	ニ取扱任事					
		特方ヲ以テ	在一级被進					
		叙從五位						
		大正元年	元皇太后宣職	殘務取扱被仰付				

東京府士族職明

文久三年三月

名 姓
平田 三枝

年 號 月 日 任 職 特 免 出 張 官 等 薪 給 官 階 資 格 官 階

明和十二年十月廿五日 神宮内省十三等出仕

十三年十月五日 任權命婦

十七年八月廿五日 任權命婦

翌年二月一日 權命婦 高等官八等 初上級俸

大正元年七月廿日 皇太后宮權命婦

高等官八等上級俸

廢官

元皇太后宮職 兼 取扱被仰付

命婦 准 取扱 候 事

特 方 以 上 任 一 級 被 進

叙 進 五 位

土月廿日 元皇太后宮職 殘務取扱 被 免

大正三年八月一日

東亞府平民

近江國

樹下定江

明治三年五月二十日

年號

月日

任叙轉免出張賞罰等

新到者

資格

官階

明治廿年十月五日

補宮内省十三等出仕

判任宮内省

廿年十月五日

任權命婦

奏任

翌年一月一日

權命婦高等官八等
初上級俸

大正元年七月廿日

皇太后宮權命婦
高等官八等上級俸

宮内省

大正三年八月一日

廢官

元皇太后宮職殘務取扱被仰付

宮内省

權命婦二準上取扱能奉

特方以丁位一級被進

欽送三位

元皇太后宮職殘務取扱被免

長野壯士疏

松本 忠清

名 姓
西仰早苗

西仰老義

年 號 月 日 任 職 官 階

明治廿年 正月廿日 陸軍二等軍医正

明治廿年 三月廿日 兼任侍醫 叙四等 年俸五百圓

明治廿年 九月廿日 任陸軍七師團監

明治廿年 四月一日 叙勳三等 授勳日章光章

明治廿年 六月廿日 叙勳高等官二等

官 內 階

明治廿年 八月廿日 專任侍醫

明治廿年 三月廿日 東宮御医 叙免

明治廿年 六月廿日 兼任侍醫頭

叙高等官二等

叙四四位

叙高等官一等

叙勳高等官一等

叙勳高等官一等

叙勳高等官一等

叙勳高等官一等

叙勳高等官一等

叙勳高等官一等

(三六)

長野縣士族
 送四德也三等
 江府新板藩御
 嘉永六年三月十四日
 松代藩
 名 姓

片山芳林

年 號	月 日	任 職 轉 免 出 納 官 等 官	資 格	街
明治十六年	分六日	任東京大学助教		
十九年	三月六日	任医科大学助教		
二十一年	三月廿日	依願免本官		
二十三年	十月九日	任侍医 兼奏任官四等		官四等
二十三年	十月廿日	新设拜診所用兼勤ヲ命ス		官四等
二十三年	二月廿日	由安拜診所用兼勤ヲ命ス		官四等
二十三年	六月廿日	陞叙高等官二等		官四等
二十三年	六月廿日	叙勲三等 授瑞寶章		官四等
二十三年	八月廿日	叙注四位		官四等
二十三年	七月廿日	臨時侍医頭事務取扱ヲ命ス		官四等
二十三年	七月廿日	聖上拜診主任ヲ命ス		官四等
二十三年	七月廿日	兼任侍医頭 叙高等官二等		官四等
二十四年	六月廿日	陞叙高等官一等 (兼奏任官)		官四等

愛知縣士族
 正五位上
 尾張國名臣市
 東主親節
 嘉永五年青首
 若石為滿

伊勢鏡五郎

年號	月日	任職	資格	官階
明治十一年	七月	東洋大學附掛中尉	准判任	大學
二十六年	三月	任東京大學助教		
二十九年	三月	任医科大学助教		
三十一年	九月	非職ノ命		
三十二年	六月	侍医局勤務被仰付	奉任侍遇	
三十七年	七月	任侍医	叙六等	
三十四年	三月	叙四等	授瑞寶章	准叙
三十四年	二月	叙正五位		
三十四年	六月	准叙高等官二等		
大正元年	九月	東宮收濟所詰被仰付		
三年	青首	宮内省分限令示六条第一項第四號		
		依リ休職被仰付		

族新 東上京府平氏

名 姓

生年 文久元年六月十七日
名 姓

名 姓
鈴木愛之助

年 號 月 日 任叙轉免出張實額等 此欄内 資格官 衛

明治廿四年六月二日 任侍医

叙奉任官曰等二級俸下賜

全日本六年六月廿日 陞叙高第官二等

大正三年七月廿日 皇府官科診主任ヲ命ス

去官 叙勳三等授瑞寶章

全日本 叙従四位

官 内 省

東高有平氏

族名

名

安政五年四月廿五日

池邊棟三郎

年號

月日

任叙轉免出張實別等

辭官

資格官

衛

明治七年八月

任近衛勤務課少輔

但左位侍從 兼侍從

任廿年 有言

任侍從 叙六等賜三級侍

任廿五年 六月廿日

叙頭等授瑞寶章

大正二年 二月廿日

叙正五位

任三年 七月廿日

任叙高等官二等 賜三級侍

宮内省

大正三年 七月廿日

任聖上御診主任ヲ命ズ

九月廿日 任近衛醫事課長ヲ命ズ

(三)

年	月	日	任官	官格	官位	姓名
明治廿一年	七月	二日	任侍医	四位	下等	相磯 愷
明治廿二年	七月	廿三日	兼任侍医局主事			
明治廿三年	九月	十七日	新官拜診所用兼初ノ命ス			
	十月	一日	貞官拜診所用被仰付			
	十月	廿日	貞官拜診所用被免			
明治廿四年	六月	廿日	授教高等官二等			
明治廿四年	六月	廿日	授勲三等授瑞宝章			
	八月	十日	授四位			

相磯 愷
 江田 在 丑三等
 東条 下 巳 三味
 牛政 丑年三月三日

(三六)

347

東京初華族
 正四位上三等
 静因
 去三年九月八日
 加藤忠太郎

名 姓
 加藤照麿

年 號	月 日	任 叙	資 格	官 階
明治廿年	二月廿日	侍医局勤務被仰付候事 准左任		官内者
廿二年	十月廿日	任侍医 教左任官四等		〃
廿九年	十月廿日	泰安拜診所用被仰付		〃
廿五年	八月廿日	迪安淳安拜診所用被仰付		〃
廿八年	一月廿日	光安拜診所用被仰付		〃
廿九年	十月廿日	授医名博士		〃
廿四年	十月廿日	陞教高等官二等		官内者
大正元年	九月九日	皇子附兼東宮役所詰被仰付		〃
三年	十月廿日	教勲三等授瑞宝章		官内者
四年	十月廿日	東宮所詰ヲ免ス		〃
〃	〃	授正四位		〃

宮内省

(三六)

東京府年表

楊同和等一前因
在神戶中倉町

安政五年七月五日

名 姓
吉松駒造

年 號	月 日	任 職 轉 免 出 張 賞 罰 等	資 格	官 階
明治廿年	三月	東京府小大工頭大工頭手		
明治廿九年	四月廿日	任侍医 叙回等賜三級俸		
明治廿年	三月廿日	陞叙高等官三等		
明治廿九年	九月九日	皇子附兼東京府所管工頭手		
明治三十年	二月十日	叙回五位		
明治廿年	六月廿日	東京府所管工頭手		
明治廿年	三月廿日	陞叙高等官二等		

(三六)

東京府華族

藤岡 藩

天保十二年六月
池田秀之

名 姓
池田 謙齋

年 號	月 日	任 職	資 格	官 階
明治九年	五月廿一日	任陸軍少將		
	六月廿七日	宣内木沙月掛兼勤		
	六月廿七日	兼任三等侍醫		
		後昇進一等侍醫		
明治十九年	五月廿一日	任侍医局長兼兼侍医		
明治廿六年	十月廿一日	叙勲一等授瑞寶章		
		明治廿六年 叙勲功		
明治廿七年	十月廿一日	叙一等賜一級侍		
明治廿九年	三月廿一日	依勲免本官兼兼官		
		特旨以予華族、被列		
		依勲功特授男爵		
明治廿九年	九月廿一日	任室中顧問官		
		叙一等		
明治廿六年	六月廿一日	叙正三位		
明治廿三年	七月廿一日	叙從二位		

(三六)

嘉永五年七月十六日

岡玄卿

岡

玄卿

年號

月日

任職

資格

官

職

明治七年七月

任東京大學助教授

判任

文部省

十五年三月

任東京大學助教授

兼任

大政官

十七年四月

任四等侍医

十九年二月

任侍医

二月

奏任三等年俸千石内下廻

宮内省

廿九年五月

奏任御醫

官

内

省

三十年十月

復任御醫

卅一年二月

兼任侍医局長

卅二年一月

復任御醫

二月

醫學博士學位受

卅六年十月

叙一等勳一級

四十年六月

敘勳二等授瑞寶章

實錄局

九月

依勳功特授男爵

四三年五月

授旭日重光章

大正元年十月

依勳功本官並兼官

任中藏頭官

兼高孝官一等

侍医室用掛被仰付

十月

奏任御醫

(三)

二年三月廿日 敕授三位
三年七月廿日 侍医室山用掛被先

表三科計三同清

内省

年號	月日	任職	出仕	賞罰	姓名
天保元年	八月日	依り休職被仰付			森永友健
天保二年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保三年	七月廿四日	欽注四位			
天保四年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保五年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保六年	七月廿四日	欽注四位			
天保七年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保八年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保九年	七月廿四日	欽注四位			
天保十年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保十一年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保十二年	七月廿四日	欽注四位			
天保十三年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保十四年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保十五年	七月廿四日	欽注四位			
天保十六年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保十七年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保十八年	七月廿四日	欽注四位			
天保十九年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保二十年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保二十一年	七月廿四日	欽注四位			
天保二十二年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保二十三年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保二十四年	七月廿四日	欽注四位			
天保二十五年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保二十六年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保二十七年	七月廿四日	欽注四位			
天保二十八年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保二十九年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保三十年	七月廿四日	欽注四位			
天保三十一年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保三十二年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保三十三年	七月廿四日	欽注四位			
天保三十四年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保三十五年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保三十六年	七月廿四日	欽注四位			
天保三十七年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保三十八年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保三十九年	七月廿四日	欽注四位			
天保四十年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保四十一年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保四十二年	七月廿四日	欽注四位			
天保四十三年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保四十四年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保四十五年	七月廿四日	欽注四位			
天保四十六年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保四十七年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保四十八年	七月廿四日	欽注四位			
天保四十九年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保五十年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保五十一年	七月廿四日	欽注四位			
天保五十二年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保五十三年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保五十四年	七月廿四日	欽注四位			
天保五十五年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保五十六年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保五十七年	七月廿四日	欽注四位			
天保五十八年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保五十九年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保六十年	七月廿四日	欽注四位			
天保六十一年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保六十二年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保六十三年	七月廿四日	欽注四位			
天保六十四年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保六十五年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保六十六年	七月廿四日	欽注四位			
天保六十七年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保六十八年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保六十九年	七月廿四日	欽注四位			
天保七十年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保七十一年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保七十二年	七月廿四日	欽注四位			
天保七十三年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保七十四年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保七十五年	七月廿四日	欽注四位			
天保七十六年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保七十七年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保七十八年	七月廿四日	欽注四位			
天保七十九年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保八十年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保八十一年	七月廿四日	欽注四位			
天保八十二年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保八十三年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保八十四年	七月廿四日	欽注四位			
天保八十五年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保八十六年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保八十七年	七月廿四日	欽注四位			
天保八十八年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保八十九年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保九十年	七月廿四日	欽注四位			
天保九十一年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保九十二年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保九十四年	七月廿四日	欽注四位			
天保九十五年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保九十六年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保九十七年	七月廿四日	欽注四位			
天保九十八年	七月廿四日	依り休職被仰付			
天保九十九年	七月廿四日	特旨ヲ以テ位一級被進			
天保一百年	七月廿四日	欽注四位			

東京村士族
 経四位重四等
 肥前国佐賀村木野
 嘉永三年四月十七日

姓名
 森永友健

年號	月日	任職轉免出張賞罰等	資格	官	職
明治七年	有十四	侍医局勤務被仰付 委任待遊		宮内省	御
明治八年	有十七	任待医 叙六等			
明治九年	有廿四	叙正五位			
明治十年	有廿四	附叙高等官二等			
明治十一年	有廿四	叙正四位 授瑞寶章		宮内省	御
明治十二年	有廿四	宮内省 限令第六条 予復予四節			
明治十三年	有廿四	依り休職被仰付		宮内省	御
明治十四年	有廿四				
明治十五年	有廿四				
明治十六年	有廿四				
明治十七年	有廿四				
明治十八年	有廿四				
明治十九年	有廿四				
明治二十年	有廿四				
明治二十一年	有廿四				
明治二十二年	有廿四				
明治二十三年	有廿四				
明治二十四年	有廿四				
明治二十五年	有廿四				
明治二十六年	有廿四				
明治二十七年	有廿四				
明治二十八年	有廿四				
明治二十九年	有廿四				
明治三十年	有廿四				
明治三十一年	有廿四				
明治三十二年	有廿四				
明治三十三年	有廿四				
明治三十四年	有廿四				
明治三十五年	有廿四				
明治三十六年	有廿四				
明治三十七年	有廿四				
明治三十八年	有廿四				
明治三十九年	有廿四				
明治四十年	有廿四				
明治四十一年	有廿四				
明治四十二年	有廿四				
明治四十三年	有廿四				
明治四十四年	有廿四				
明治四十五年	有廿四				
明治四十六年	有廿四				
明治四十七年	有廿四				
明治四十八年	有廿四				
明治四十九年	有廿四				
明治五十年	有廿四				
明治五十一年	有廿四				
明治五十二年	有廿四				
明治五十三年	有廿四				
明治五十四年	有廿四				
明治五十五年	有廿四				
明治五十六年	有廿四				
明治五十七年	有廿四				
明治五十八年	有廿四				
明治五十九年	有廿四				
明治六十年	有廿四				
明治六十一年	有廿四				
明治六十二年	有廿四				
明治六十三年	有廿四				
明治六十四年	有廿四				
明治六十五年	有廿四				
明治六十六年	有廿四				
明治六十七年	有廿四				
明治六十八年	有廿四				
明治六十九年	有廿四				
明治七十年	有廿四				
明治七十一年	有廿四				
明治七十二年	有廿四				
明治七十三年	有廿四				
明治七十四年	有廿四				
明治七十五年	有廿四				
明治七十六年	有廿四				
明治七十七年	有廿四				
明治七十八年	有廿四				
明治七十九年	有廿四				
明治八十年	有廿四				
明治八十一年	有廿四				
明治八十二年	有廿四				
明治八十三年	有廿四				
明治八十四年	有廿四				
明治八十五年	有廿四				
明治八十六年	有廿四				
明治八十七年	有廿四				
明治八十八年	有廿四				
明治八十九年	有廿四				
明治九十年	有廿四				
明治九十一年	有廿四				
明治九十二年	有廿四				
明治九十三年	有廿四				
明治九十四年	有廿四				
明治九十五年	有廿四				
明治九十六年	有廿四				
明治九十七年	有廿四				
明治九十八年	有廿四				
明治九十九年	有廿四				
明治一百年	有廿四				

正五位 但四等
 岩代國伊達郡
 富成村

福島藩
 嘉永元年 六月 百生
 佐久間 良庵

三浦 尚 軒

東京府平政

上徳園市系科
市東村

安政五年五月十日
大羽貞郎

名 姓
原 田 貞 夫

年 號 月 日 任 職 轉 免 出 張 賞 罰 等 資 格 官 街

明治三年 三月廿日 任 醫 友 叙 三 等 後 下 級 俸

明治六年 三月廿日 任 博 医 補 叙 八 等 賜 三 級 俸

明治十年 三月廿日 陞 叙 高 等 官 七 等

明治十三年 三月廿日 陞 叙 高 等 官 六 等

明治十四年 三月廿日 叙 正 七 位

明治二十二年 三月廿日 任 替 博 医 補 叙 八 等 不 在 中 東 京 府 役

官 内 省

海 外 註 命 又

明治三年 三月廿日 臨時 東京 府 註 命 又

考 其 考 全 上 考 免 又

本籍 群馬縣 群馬郡 士族

籍貫 群馬縣 館林藩

明治三年 安政三年 其日
名 姓 銀太郎 後 銀悦

名 姓 長 日 重 雄

年 號

月 日

任 職 轉 免 出 張 賞 罰 等

薪 俸 給 與 等

資 格

官 銜

明治三年 六月廿七

侍 從 向 勤 務 之 命 之 任 任 持 遇

名 姓 銀太郎 後 銀悦

任 侍 從 補 叙 八 考 賜 三 級 俸

名 姓 銀太郎 後 銀悦

任 侍 從 補 叙 八 考 賜 三 級 俸

名 姓 銀太郎 後 銀悦

任 侍 從 補 叙 八 考 賜 三 級 俸

名 姓 銀太郎 後 銀悦

任 侍 從 補 叙 八 考 賜 三 級 俸

名 姓 銀太郎 後 銀悦

叙 西 七 位

官 階 首

(三六)

年號	月日	任官	資格	官階	姓名
明治十三年	有某	補官口有十等出仕		官口有	福井 勲
明治十九年	有某	任某副師			福井 高
明治廿五年	有某	任某副師長			山田 董
明治卅一年	有某	授某子博士			
明治卅四年	有某	陞授高等官三等			
明治卅五年	有某	授勳四等授瑞宝章			
明治卅三年	二月十日	授正五位		官口有	

福井勲
正五位勳四等
勳前四等勳
福井中与力所
福井高
明治卅六年四月十日
山田董

(三六)

兵部 兵庫 兵部

生田 五年 五月

名 姓
弘 田
長

明治六年 青宮 任 醫學校 一等 教諭

月俸 百三十兩 終典

十六年 二月 兼 白 屬 病院 長 申付

青宮 兼 南 掛 衛生 課 醫 務 係 掛 當 申付

十七年 七月 依 勅 免 本 官 並 兼 職

廿三年 青宮 任 醫 料 大 學 子 教 授

叙 奏 任 官 四 等

廿四年 八月 青宮 學 位 令 才 三 條 一 條 二 條 二 條 醫 學 博 士

學 位 子 授

廿五年 八月 青宮 官 內 省 御 用 掛 兼 勤 被 仰 付

迪 官 淳 宮 拜 診 以 用 被 仰 付

廿六年 八月 青宮 光 宮 拜 診 以 用 被 仰 付

三月 附 叙 高 孝 官 一 等

廿九年 四月 一 日 敘 勳 二 等 瑞 寶 章

大正三年 四月 一 日 叙 從 三 位

四年 六月 青宮 東 宮 拜 診 以 用 被 免

官 內 省

賞 勳 局

內 閣

官 內 省

文 部 省

內 閣

庶 務 省

本貫 藤原村士族

名 姓
慶應二年青四

名 姓
後藤武三郎

年 號 月 日 任叙轉免出張官納等 爵位 資 格 官 銜

明治廿九年三月廿 任東宮侍 叙六等

一 年 六月廿 陞叙判任官一等

大正三年三月廿七日 叙勳八等授瑞宝章

一 年 三月十日 叙 從七位

宮 内 省

(三六)

360

本籍 東京府士族
 籍貫 禁裏山内
 生年 弘化元年五月八日
 名 姓 林有鄰

年號	月日	任叙轉免出張實封等	資格	官階
明和十九年	二月六日	任皇太后宮亮 叙判任官十等		室田者
一三年	四月廿日	廢皇太后宮亮		
一廿三年	四月九日	任東宮亮 叙五等		
一廿四年	七月廿日	叙進七位		
一廿五年	七月廿日	叙進七等 授臨宮亮		
一廿六年	九月廿日	任皇太后宮亮 叙判任官三等		
一廿七年	七月廿日	依願免本官		
一廿八年	七月廿日	皇太后宮亮臨時事務ヲ囑託ス		
一廿九年	七月廿日	但判任待選		

宮内省

年號	月日	任官	資格	官	階
明治十七年	有某	任 雜 掌			
明治十九年	有某	任 内 舍 人			
明治二十年	三月六日	兼 任 舍 人			
明治二十年	七月廿三日	補 内 舍 人 兼 舍 人			准 判 任 七 等
明治二十年	七月廿三日	補 東 内 舍 人			准 判 任 七 等
明治二十年	七月廿三日	兼 任 舍 人			
明治二十年	三月廿九日	任 内 舍 人			叙 四 等
明治二十年	三月廿九日	任 内 舍 人			准 四 等
明治二十年	三月廿九日	兼 任 舍 人			
明治二十年	六月一日	任 内 舍 人			叙 判 任 官 三 等
明治二十年	六月一日	兼 任 舍 人			叙 判 任 官 三 等
明治二十年	六月一日	叙 判 七 位			
明治二十年	六月一日	叙 勲 八 等 授 瑞 寶 章			
明治二十年	七月二十日	陞 叙 判 任 官 一 等			
明治二十年	七月二十日	官 内 左 少 監 兼 中 六 条 守 一 段 兼 四 辨			
明治二十年	七月二十日	二 依 々 休 疎 予 命 又			

明治二十年七月二十日

大 理 義 介

官 内 舍 人

東京府士族

明治四年五月廿日

米津小次郎

年 號 月 日 任 職 轉 免 出 張 賞 罰 官 階 官 階 官 階

明治廿年 七月十日 膳部補中付

二十六年 七月廿五日 破格差免

二十三年 七月廿五日 任東宮侍 叙六等

十四年 七月廿五日 陞叙判任官二等

宮 内 省

東京村士族

慶應三年七月廿六

高木慶太郎

年 月 日 任 叙 轉 免 出 張 賞 罰 等 爵 位 官 階

明治廿五年 四月廿六 任 皇后 宸 屬 叙 六 等

一 四 十 三 年 十 月 廿 六 叙 八 等 授 瑞 寶 章

一 四 十 四 年 十 月 廿 六 陞 叙 判 任 官 一 等

一 四 十 五 年 七 月 一 日 叙 授 七 位

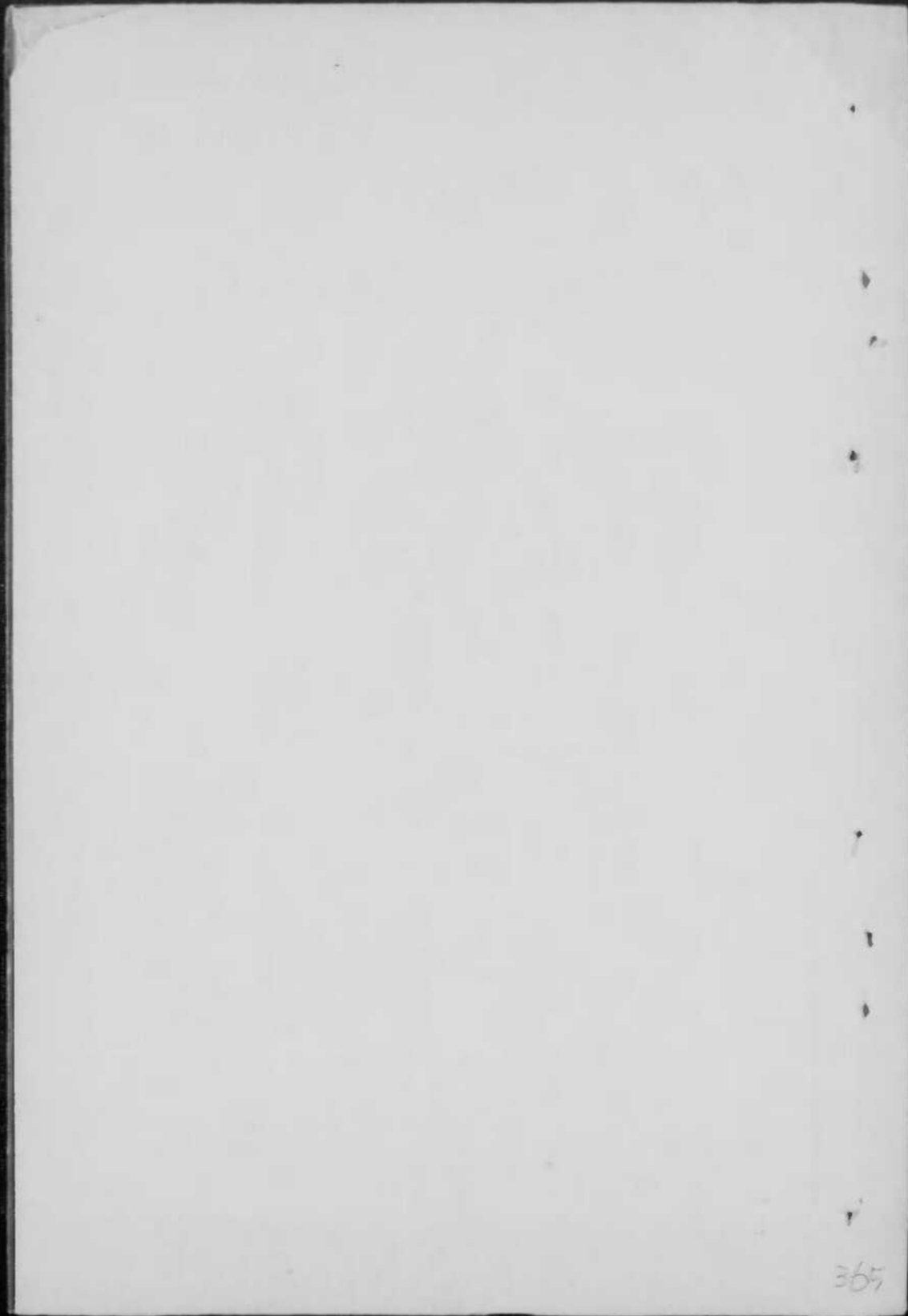
大 正 元 年 七 月 廿 日 皇 太 后 宸 屬 判 任 官 一 等

一 三 年 八 月 一 日 廣 官

一 四 年 六 月 廿 六 任 韋 典 補 叙 判 任 官 三 等

官 內 省

(三六)



365

